832
97
305

賀茂社記録　第八十七

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

競馬會慇奉行勤方

832
97
305

87

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

四月 大廿日
小廿日

一内刻前ニ被仰渡方ヲ案内次第惣奉行仲
参羽織仲間小者召連将監分有之其次第
帯刀
任乗道ヲ将之内ヲ入出口ニ而見合ヲ以参候ハ
召寄次ニ用ニ而下方事ニ而ハ無之

競馬會惣奉行勤方

四月大廿九日
小廿八日

一五月朔日足汰人割 有惣奉行
着袴自秉燭後谷参集評議所
先廻状二通 神主ヨリ沢田祝迄一通 乗
尻十人割當乗ヨリ貝吹迄一通
認置之 其筆見
子左 留守居ヨリ一通
支ニ可致候 条有申附事
人割之儀ハ第日會所ニ申入候
七町行事 明キ人之書付 評議ニ
而致指図 名立高大帳ヘ申付置
申入ニ谷参集之上ハ太ト助ヘ
之行事 召寄 宗上日帳面ヲ以々

正 7.2. 求 日

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』　請求記号 832-305
ガラス使用

令達之明き人何人ゟ相知之上惣人
用之人数ニ日ニ而右明き人ゟ引之
残ゟ不足之分桝原深泥池ゟ
下付人数幷ニ定但桝原ゟ
人数多中付之分ハ他方共負数
書付 舎弟ゟ中付之分ハ他方中人金ニ
且人割帳ニ差帳ニ而諏可認置
之
一翌日惣検敷ニ朝飯後早出
各人幷人割毎人評定惣奉
行之外ニ兼摂或ハ組取ニ而可定
置之

一廻状之案文如左

廻状

明日五日将之内出ニ口当口ゟ附
ゟ走木入込ル儀無用之旨被相
触ル候共ニ右用入込ル者之
沐口附毎人ニ外堅ク入被ニ而
被下候ハ毎ニ被触ル候共入込
差有之ル間敷候 以上

四月　惣奉行

神主殿
　〃
澤田祝殿

右早ニ廻ル而評議ハ此席ニ而可致

回状

来ル朔日召具之者共将之外
往来堅無用之旨毎度被相触
候ニ付泳其上旨相守ふ法無之
様急度可被相心得候

四月　惣奉行

乗馬九人

右申ス迄ニ御座候

朔日

一朔日朝領後早ク人数ニ仁狩
支人着袴参集于評議所一ツ
夜不穏ニ付帳面ニ人丈来
次第支ニ申付　其節帳面ニ
記置支

一枝数ニ早出シ仁狩人ニ朝領後
ク小者来次第　但小者ニ来ル
ふ伝ス張紙ニ麻上下
草物或袷　惣検者ニ出張職ニ
相勤支

一一番大鼓ニ後惣奉行各評議ニ
立寄ニ会所ニ相揃ニ参集ニ惣検者
九ツ相揃之上ニ素襖召連　先ニ素襖
馬場迄ニ其後之辺ニ自為見届
見分之支

一足揃始之節惣奉行一人執筆ニ

出附之元御所屋ニ行勾毛附ヲ
元了早ク惣検数ニ立帰披露
一両被夏
一小振舞之儀者二番之番将入
之後惣奉行与人衆金、行勾
来ル階ヲ昇リ一献了代後ル方ヲ神
主方ニ参リ三番ヲ小振一両被舞ル
之旨社務准之上ニ出ニ任衆中ニ
以素襖ヲ申ス夏 右ノ通安永元年十月
七日立会之命ニ而夏

一番組深ク場衣雑人大概帰ル時
分検校ニ、職中与人被相残惣奉行、
如和素襖召連ル場高ヶ見分之上
相残君ハ若党ト早ク此ノ所ニ而
申渡ヲ各退出ル評議所ニ立
寄会有、何モ引払候相帰
申ス夏

二日三日ハ

一惣奉行集ル于評議所ニ五日之人数
并人数帳廻状未相認ル前日朝
飯後早ク人数之仁弁定ル儀ニ
全朝日同前ニ夏 但廻状ニ案箱日同
前夏

五日

一朝飯後早ク人数之仁ニ人出張
朝日ニ而同前夏

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

一惣拔數ヶ朝敬汲早ゝ参入出張支

業相日同前之支

一一番大鼓ゝ汲惣奉行各出張相日

同本杠揃ゝ上ゝ場表見分世話同

翌日ゝ

一今日左勝負ゝト一式階下之乘半方

小振畏之儀ゝ兼ゝ左右之階下ゝ参合

二番ゝ番持ゝ入叶分左方階下ゝ方

階下ゝ三番ゝ小振ゝ役略有中ゝ

右方ゝ惣拔翌惣奉行中ゝ右ゝ勢入

依ゝ神前ゝ惣奉行ゝ入叶汲方ゝ振

三番ゝ畏之旨中入之上ゝ右方ゝ出口所

奥中ゝ右ゝ泥中入支

一右深ゝ汲ゝ場高ゝ見分之儀翌

日前ゝ支

天明六丙午年五月　芥経誌

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

御所司馬来時一番大鼓ヲ打之
二番大鼓ヲ時葉流、祝儀後
一つもり三番大鼓ヲ聽座出ル
ヲ事

競馬々所之覚

一四月中比足代葉元之指奉請取、
一つもと事
但葉ノ装束ヲ元ヲ弱ヲ

一門ヲ出ル葉元ヲ馬帽子許
許ヲ許ル事
但竹馬帽子ヲ料無事ハ涼事後
ヲ時事ヲ事ヲ引ヲ

一門ヲ出ル地鞍竹具後ル一つヲ
但竹具ヲ事ヲ弱ヲ

一葉元ヲ勅ヲ弱ヲ弱ヲ
ル事ヲ弱ヲ稽古

競馬葉事

仰 大ノ月ハ廿七日
小ノ月ハ廿八日

一馬屋建之事　大ノ月ハ廿九日
小ノ月ハ廿八日
但シ屋根ハ葺上ル事ハ
後ニ可申事

一馬ヲ繋ク事

一ニ馬ニ乗ル事ハ別紙ニ
記ス

一馬飼草ヲ持来ル事

右ノ
条々ニ背ク者ハ
速ニ可申出者也

一番屋、敷地明ケ渡ス事
入札ニ而決ム

一番屋敷地入手ニ而浄土
寺ニ

一敷地ニ而ハ竹木ヲ伐リ取ル事
堅ク無用ニ可致候

敷地ニ而ハ
竹木ヲ
伐リ取ル
事堅ク
無用ニ
可致候

たこ
竹ヲ
切ル
事

ケツリ物
ハ
沖
ここ
ニ而
焼捨ル
事

今ハ
竹ヲ
切ル
事

二

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

五日

一前日馬頭草履如常

一馬寮事事如例

馬寮領

鵜飼

一馬附、葛籠持人別当

一馬二葛籠持ち事

一粽人別当

一馬附、沓洗出ル事

例の如し

一乗尻人、手ニ素襖着事

ニ葛籠共ニ事有ル

一深草手ニ登ル、例の如し

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』　請求記号 832-305

ガラス使用

延喜式二九巻第

雑魚

鮮 高盛 汁 焙 頸
ナツリ物 ちさ

鮨 小 飯

二ノ膳

鮮焼物 汁
あさ
焙きさち
えび

青 汁 焙干
かいも
えそ

青 煮
若女

煮物 生の物

汁漬 干物 生の物
ふくめん

汁 煮物

干 朝

汁 焙さい

飯

煮物 生の物
えそ

延喜式 巻第二十

競馬乗手秀言

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

競馬雜要秘記

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

競馬雑要記 秘抜

階下祝詞役

一 階下祝詞役ハ先ず元より神前にすゝみ奉りその幣帛をうけとり神前にすゝみ奉りて幣帛を奉るよりあげ案元より幣帛をうけとり次を勤めんとする時ハ奉るまで幣帛捧持する小庭まで再おゐて祝詞をよみ幣帛を左の方へ少しさゝげ案中門を出て案元より對一還祝詞の役ハ階下改めて幣帛捧持奉りて退退祝詞よりハ役の事也心得へし

祝詞鉦鼓禄ハ之役

一 祝詞おゐて馬場九幅まで勝負を定し 此鉦鼓禄ハ此役也往昔ハ祝詞の役ハ氏神祢宜祝二人也鉦鼓禄ハ役ハ若宮奈良澤田三社乃祢宜祝以上六人也近代代官二人兼役して勤むる事よりおこりなり

頓宮

一 頓宮ハ幸中古以来本宮の祢宜と人ゝ兼帯

毎年社務代拝をもてうけしをもて式日の事
やいつ比をかく改し付るまやいふり頓宮行
宮とにかゝるをと訓す俗の宮也 氏禄説 主上上皇かゝる
ま凌ぬをゝふ多御神座をもかくいふ歟
称するに甚當をもて幸あるく競馬行れ
しは階下の役公卿とえへまり故実の階下
に候するなむ也ふる迹也五年の時絶すうこと
年く設おきく社あこれを勤来れるまや
連久説 又神院の故実とも説もあり
右清蔭朝臣の所記を給也

勝負事

一 秀顕競馬記云勝負アラソイハロクノ消カラスヘノ物也ロクヲ押ヘヨ但又ツミアヨシトヘ内ノ馬ムテヲヨク見ヨ

倭文落馬ノ時金津下馬ノ

一 成秀競馬記云倭文ノ馬勝負鉾ヲ過ルヲ見テ金津ノ馬先ヘシ若左ノ栗尻勝負鉾ヨリ前ニテ落馬ノ時ハ右ノ栗尻ヲルヽ者也

緑ヲ截ノ

一 同上記云禄ノ綉ヲカクルハ黄衣カ仗也栗尻栗ニカケ左ノ肩ヲウレロヘキコスノ二度右ノ栗尻ハ右肩ニカクルニヽ

先馬追馬并居負ノ

一 同上記云競馬追馬ト云ハ二番ハ倭文ヲ云左ヨリ埒ヘ入二遅半ニテ生ニ敵埒ヲ取リ也ヲイリニヲヾリ目ニ出ス二番ハ一番ノ右ニノ故ヲクミ右ヨリ埒ヘ入前ノコトクノ三遅也ヲ栗ニヲヾリ目ニ出ス不法ニテ出ス時アイテヒカヒノコラハ居ニテナニナルニシキ也ヘナラレ栗ルヘシアイテ不法ニメ出スヒ追馬鞭ヲ合音合セテ残ラハ居ニケリ階下ノ眼ヲツクス所也先馬ト云ハ金津也下是ニテラヘテタム方追馬也ニヽ

小振ノ

一 同上記云ヲヾリ之事近年不法ニ成アイタ

代官所社中、ウカヽヒ談合ヲ以テ縫殿助成詮
本佐守有久肝煎ニテコブリノヤウ書付葉所、
渡ス 筆墨拵スル二保亂記云右正保四年卯月廿三日
老若一統被相定ヲヽ
一葉所衆三度巴すき二度ハ小根ニて三度目
ニ志ゝもて有ことの其内さまあとのこるやうす
小根なくハ出ものとも引ゝ殘る方いまけふかり
やうなるおの〳〵ハ此ほうこの方ゝしの若衆共
ゟ小根なくハ出葉ゟ若又場ゝ入なをしハ小根ハ
志ゝもこゝろさしの但小根三度目よりもなり
すくてすかゝへ糸のことく〳〵二ゟ二ゟあるひハ
ゟ二ゟにてもすくすくハ小根ハて心深ゟ二
志ゝもこのさしの心上
右ハ久ゝ出葉ゟ時ハ前ゟさきこるぬけおい
ゟひゝ殘りゟてハ大なをし〳〵ゟみさしの追馬
ぬけさきこるのこり〳〵ていますなり二ゟの心上
正保四年五月三日
右之書付倭文栄所左馬佐重信へ渡ス五
月四日乃夜栄所初栄中へ披露あり心ゟ
存の巴迄事有ゝゝと

大鼓ノ
一保亂記云場内勝負仕様之事
先一番之左ヨリ場ニ入扨右又場ニ入サンデ
巴鐘スリ有之一ツ時カヽラニツヽケノニテ時
又カヽラニツ三テ巴時又カヽラニツヽケ扨三テ
リ有之ヨリ返シ三テリノ以上六度目ニ馬ヲ馳
ス左ノ馬勝負未スルト大鼓ヲ一ツヽケ也負勝
有トモ大鼓ヽケ也ヲソクテ不苦也ヲヽ

左方幄ノ
一成考競馬記云左ノ幄ヲ東へ遠ノケテ作ル
ハアヒテノ音合クリヲヒ顔見セクリナント勝
負ノアラソヒ出来ル時ノ為ニ傳ル支也

出口肝煎勝負指圖無用ゝ
一清食日記云延宝六年五月五日競馬四番左
左兵衛督保光右衛門大夫重乳歟也勝負未

頭勝保光負著座神主先階下ゟ使神人
ニ而ヲ手ニ雖為其合点堺内肝煎ゟ
入直ニヲ由ニゟ而共左右共ニ依馬珠ニ右保光
痛有ゝ而共ニ非共入直ニヲ由ニ而保光
之浄衣着子息鶴福丸ニ雖為若年ニ被
装束ヲ而ヲ前代未聞珍作法也
同六日寄合神主保可四番之競馬勝負之
扨子入直ゝ招子及披露而後肝煎中ゟ勝
負ゝ事披露ニ而ヲ宮用由ニゟ而大事ニ
恭宮被以後小中指ゝ例
一清兵日記云延享三年五月四日入夜於前司
成文亭小中指有之ヲ競ニ一番左保栄俄
ニ労有名代ゝ俄雖被頼候文ゝ馬故名
代も無之ゟ者表保伸小杉紙依拵ゝ
名代無之時ニ神事ゝ常故座席元ゟ
ニ小中指ゟ催ニ

小振舞ゝ事

一清兵記云五日小振舞ゝ俄階下ゝ取斗故
勇ニ左右方ヲ合墨二筋ゝ番堺ニ入時分
左方階下ゟ右方階下ニ三番ゝ〻ゟ舞或ゝ
ゟヲ出ニ于時右方ゟ惣残衆ニ右ゝ競ヲ入
思召入無ゝ我ゟ右ゟ日忘ゝ上出ゝ口肝煎
中ニ右方ゟ右ゝ競ヲ入神主ニ惣残衆ニ
物ヲ行老人行向三番ゟ舞ゝ右ゟ届事

馬場本末ノ事

一競馬口傳抄云馬場之事北ヲ本以
南為末

埒上手下手ノ事

一同上云埒之事以右為上手以左為下手

負方早ク入ル初ノ事

一兼顕競馬記云天正十八年三七番競馬紀
伊守馬さゝをにてトハ〻ゝ又走馬正ヲ走則
歩ゝ忘ハゝくかりて後ヲ紀伊ヲハ云とりかゝる
ゝ負ゟ先ニ上て後くをからんとすお

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

さへて流くをうけす其時ゟ名ありて里へ
降る年ノ初也ゟし

所司目代別當神ノくりノ手并御所屋座ノ着様ノ事

一成安競馬記云所司目代ハ面ムキニナラル別當
ハ東向ニ着ノ此三人モ神ノくりヲ入ルハ若家
厄落馬ニテイクミ京ルナラサル時ハノリテノ
馬ヲアクヘキノ用也

小振舞ノ心得ノ事

一同上記云タトイ子細アリテ料ゟ上三番或
ハ三遍ニテ菜ヒ十番ハ一番ノ如クノルヘキ也

三遍巴折カヘレノ事

一同上記云折カヘシニテ菜ルト云ハ三遍也巴ヲ
京ニヨブリニテ出スト也三遍勝負ニ菜ルト云
ハ巴ノ輪ヲ家テスクニ出スヲ云三遍巴ニテ出ス
ヘシナトモ云也

御所司ノ引馬借用ノ例

一室永元年五月一日安志馬福田ノ馬ニテラレ痛
申ニ付御所司ノ御馬ホカレラレ候ニ於ノ事
其例ハ尋支度例申早速ニ許容ニ出ス
神事滞ラス　私云元禄十七年改元為室永元

勝負ノ舞再興ノ事

一應永六年五月五日豊久神主ゟ時競馬以後
ゟ勝負ゟ舞再興ノ近年中絶ゟ見社務
記

五月朔日廿人ゟ外代菜ノ事

一明暦四年五月朔日當社ノ競ラ万事ノ例但
年番先ゟ十番ナリ初度ニテ痛ノ故
菜ル十九人ゟ内代菜ゟ頼ムヘキヲ申リテ
ヘ左九人ゟ外ニ山右小源太大代ニ於京ニ
但落ラゟ事ゟ外痛ノ源太夫則右ノ雖
ノ菜ル事ゟ外痛ノ故隼人佐ゟ於御前集ノ
佐ゟ京ノ也朔日ノ事九人菜ル外ニ當屋ノル
事是例ゟ始也　清全日記

参宮被証忘ノ例

一萬治三年五月廿日兼庫先栗尻也此人廿三日参宮之後親ら為證月自先代参宮ら被ら日親ら證月之人ハ依為撫競馬ら栗尻不取成由既例被ら有ら通代先北大路木学収三日参宮被ら日依為証月馬之事為上手不成由ニテ不栗也然ル処ニ当年栗尻也之迚兼庫先ら栗ら地座席尻年老尻ら例垂為先代未ら栗尻他ニ与人ら也ら又精進ニ参ら籠ホモ以代ら其勤ら八是又以代ら相勤ら不ら苦由ニテ兼庫先ら栗此即例ら初也

落馬ニ衆絶ノ一

一清全日記寛文五年五月一日競ら如例年但馬守子息依在京清常初栗也八番め初走ニら場崎ニ為ら絶入一刻計栗廿ら〻へら心ニ衆ニら故廿番相済ら〻へら社ニ少シ手ヤ、将ら中栗リトリ仁ニら故俄ニ主税助子息角在馬ニ乗ら危ニ成ら〻ツケニハ六番めニお被ゆら右故主馬左子息ら福栗ニ被ゆら依左馬ニら夜ら元ハつきニとも被ら気才なとか乗りさら〻ら

一日番ら時金津落馬ニ直也ら事

一主殿頭季好日記ニ寛永八年五月朔日晴足汰神事所司千代鶴着座傍文民部丞金津傳吉大夫然ハ番之時金津馬八ヲ階御鉾前ニテ落馬然ル処社務用水馬ヲ入直可被申由ニ候ハ共傍文金津馬相遅ニテモ入直ル事無之若入直ダル仁候ハ、名差ヲ可被申無左候ハ、入直スニシク候ト申閉口被申候則入直サス馬上り申候也

順徳院御字

一建保五年新日吉小五月會ニ

新院番長秦頼峯

府　生秦武澄

イニ澄改

仕フマツリケルニ頼峯追フテ勝ニケルカ馬場ホミテ落テ死タリケルヲ即ホ壱テ父頼武カ残ホニ候ケルニ先生殿ノ死セ給ニテ候ト告タリケレハ頼武カイテ捨テ候ヘト言タリケルニ又下人ハシリテ息イテサセ給フテ候カ御冠ノヒシケテ得ニイラセ給ハスト告タリケレハ已ガカフレル烏帽子リカレトイニタリケレハ則下人カカブルヲホウシヲヒキイレテ　袋　アケテニイリタリケルイニシレウミヘケリ

一天和三年五月五日一番左ノ平落馬冠損不ニ用ル期着立烏帽子事

于時文政十仲夏自經威借用秋出之畢

笹子

安政四丁巳年季秋写之　　經啓

国立国会図書館　　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』　請求記号 832-305

ガラス使用

中指後衆兄相替之例

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

延引イツニテモ競馬會被執行節可被相催
有也左候儀モ先年元文二年四月十一日中御
門院様崩御ニ付競馬會ホモ延引之時右歩
之儀ニ及立合之流評処袖判之儀ハ如例
被相渡可然若葉元中競馬會ニ故障
當病ホ有之時ハ可被名代但初葉之儀ハ
次座ハ可有奪物論袖判モ其行ヨリ可被
相渡一社ヨリ二重ニハ不出申由之左中指者
如例ヶ相傳指揃ハ競馬被執行節ヨリ右催
有一度之由庸清日記ニ云
二月十一日
競馬會来十日昔例ヶ通可執行旨被仰出
候由ヶ右觸ヶ事
同月十七日
競馬會葉元之内長季方儀ハ當年初葉ニ則
先達ニ候由ニ初代之儀無被頼置故度故
障有ニ付上ハ仍初葉ヶ長氏買巡番故被
勤之ニ付先達ニ九番元ヨリ先定葉元之内
史顕長自分之馬被上氏置ヶ初代勤仕ヨリ
且又四番元葉元長季ヶ替ニ付中ヨリ番面ハ被
遣候葉馬之仁躰ホハ先達而被相定通之
無然初葉ヶ仁神相替故今日於庁可顕
長ハ中指ヶ相催各出席同前
同月十八日
朝飯後於河亭指揃出席同前
七月朔日
七日競馬會
文政八年未四月十八日
當年四月　新勅ニ為門院様無之觸穢
被仰出競馬延引右ニ付中指ハ日被相催指
揃之儀者競馬會被相行以前被相催候先
格也
今日於庁可賢清亭中指如例座席元壽
顕經結經威所可代候顕諸事如例
觸穢ニ月二日相明申候ニ付競馬會當月
十一日ニ日被相行候ニ付八日指揃被相催
候也

六月九日
一於円亭指揃参集座席衆寄顕経紹経威
所司代張顕諸事如例
座敷座席衆寄被申入章尼表拝賀之事
一宝永十庚辰年四月晦日
於文幸亭中指座席元座幸普俊清足所司代
容直如例座席元組合之内顕之一家多座敷候
故十番右質顕相拓何成共入魂之上面ニ可
被賀旨申入則和琴ニ入魂之上和琴小折紙
被出ニ諸事如例
一
明和二乙酉年四月廿四日
於所司代田兼亭但教歟中指有之座席
衆普俊清足史顕并所司代富峯ニ如例
但当年者顕一家多座敷章尼質顕陳顕之
所ニ席敷組合不出来ニ付両人之内面ニ可被
賀旨其手ニ若俊ニ以申入則両人之来被申
聞者色々与致候得共面之仁辞無之ニ付
今一人次座ニ屋顕有之間何卒此仁ニ被申
入可給旨頼ニ付屋顕相拓旨ニ諭申入処ニ之
相談之上如何様共可被致方ニ替りニ面無
之時者禦取ニ被致一人可被退旨ニ而則小折
帋被出屋顕被退ニ付組合出来仍及申刻
斗者也

小中指被催事
一宝永十三丙申年四月晦日座席元光宗清足史
顕所司代應氏
同月廿七日小中指有之旨趣者一番元東尼勢清
行第死去ニ付初清子小折帋被出故被組改
者也朝日足汰章元洛庄和清晴南氏也座
席元清足史顕表帷子續上下所司代應氏麻上下
ニ而参集書物小漬出候由ニ而ニ
同月廿八日指揃如例
一
安永二癸巳年四月晦日於私宅所司代兼茂名帷子上下ニ而参
集諸事如例
同月廿六日於私宅小中指有之旨頼者立日章元
之内四番之右清芳従父姉死去ニ付晴南氏小折

紙被差出依之朝敵後相催之參集之輩
中指月前甫氏座清芳子月座故除清
芳且前ハ入甫氏差奇被書認之古又ハ
清御國ホ出之差揃月前但献之儀ハ無之且
小中指之時看用之品不及帷子何モ濱上
下ニテ參集之然ル処所司代兼茂去年被記
置而可代私記小中指ハ袴ナリ有之故上ハ不
着旨実被申之何モ上下之私ニ被覚者有
一分上下也尚追テ勤出可有之旨也
月六八日
於私宅午刻許指揃參集月前直矢ノ筆
月晦日
戌刻許於私宅小中指旨趣者二番充昔奈良
三番右郎清所労ニ付表被替武清拿馬之旨
ニテ若俊小折紙持參依之小中指相催參集
之輩昔俊清足央顕直矢所司代兼茂
所労有代兼貫来之故座席之違無之故右
方差符郎清之処張紙ニ武清ニ被改尚
帰宅之上可被書改旨也右神主ヘモ同
覚相渕候事之儀故明日祝義ニ被越拭
箱ヲ又可出旨也且祝義之儀者俄
之事故小清無之御酒計ニ而相渕
者也

一寛政四年子四月六二日中指
月日之夜於古顕亮之小中指有之旨記者
元壱尾九番左李寛故障ニ付名代之旨ニ而
小折紙被差出之集之輩畏之諸事如例

一享和二年四月六二日中指
月月六四日
小中指有之旨記者九番元壱尾二番右屋清
差障有之替保博小折帋被差出之有之催諸
事如例
同月六八日指揃

指揃後小中指之事

一 安永二癸巳年
四月廿日中指　同月廿八日指揃

同月廿日
成剋汁於私宅小中指有趣者二番亢昔葉亢三番右躬清所労ニ付表被替武清葉馬之旨ニテ若俊小折紙持参依之小中指相假来集之輩普俊清足央顕直矢ホ所司代兼茂所労ニ付代兼貿ホ之座席之遠無之故右方差符躬清之処張帝ニテ武清ヲ被改尚帰宅之上可被書改者也右神主ヘモ内覧相淵孜上之儀改明日祝義ニ被成候旨帝ヲ又可然旨之且祝義之儀者俄之事故小漬堂ニテ御酒汁ヒニテ相淵者也

一 同廿四日未年四月
五月三日朝役後早ク於所司代民練亭小中指有之旨趣者十番亢李存故障ニ付替リ延保小折紙被差出故也座席亢普俊清足央顕

所司代寄保代清院ホ来ル集右保之一家多座席相違有之故全神被祖ホ之差符二通書改清書出来之上御例御酒小漬ホ被出之献者小中指ニ旨申之次第書ニモ不相見得共今日ハ所司代ヨリ調被出之故如何之旨申及相談重テハ各別今日ホ被出候事故献有之ホ苦しゝる旨安ヒヲ以有之重テ之例ニ者成間敷ク事

一 同七日戌年四月廿日
於所司保博亭中指座席亢普俊清足央顕清立注文ニ所司代秋保
同月九日指揃
同月九日
於保博亭小中指有之旨趣者九番亢安顕并位座東虎序顕故障ニ付安顕替顕重序顕替重尚小折紙被差出依之被催之座席亢所司代ホ出席但替了所司代中指之通清書了又指揃之通廻二通清書有之了吸物ニ漬申酒ホ被出之献之儀ホ無之

一 天明八戊申年四月廿日中指
同月廿七日指揃
同月九八日
入夜於所司亭小中指有之旨趣七番右楽所貫頭女
死去ニ付替り睡頭小折紙被入候故也
一 寛政三年四月九日中指
今年頭之元九人乗馬也
同月九日指揃
同月九九日入夜
於吏李亭小中指有之旨趣右五番衆楽元六番左
保矢故障ニ付其替添氏小折紙被差出之添氏北近
初代之外其替淫宜小折紙被差出依之矢集之輩
座席元清立ル李所司代添氏ホ也諸事如先例
但添氏伐ニ番元初衆尉頭代ニテ既ニ中指指揃ホ
相済之上又ニ右之通被相替之伐自由之至也雖然
添氏ニ付依元中被及相談之処存入無之趣ニテ如此ニ
且保矢昨九日久方故障之趣五番元ヨリ届有之社中へ
假服之届ホニ有之由然ルニ今日迄小中指延引如何即日
可有之支也
一 同四年壬子四月九二日中指
同月九七日指揃
同月廿九日
申刻比於吉顕亭小中指有之旨趣右二番元楽元七番
左清高故障ニ付替り武太小折紙被差出故也諸事如例
一 同十年戊午四月九日中指
同月九八日指揃
五月二日
酉刻比於吉顕亭小中指有之旨趣右四番元楽元
七番左淫苗所勞ニ付替り二顕小折紙若役持参之由ニ
テ集之輩清立淫祭所司代報清代吉顕ホ代官
中へ渡有之間ニ二通之所司ヨリ午ノ内左方ヘ少ノ
有之ニ付右一通被認替相済也其余之書物者皆
直ニテ相済也神主へ五日所司ヨリ朝飯ニ
被案内節可ニ申旨ヘ安永四如ク之小漬
即酒ホニ出

一同十年 未四月九日中指

四月九日指揃

五月一日

巳刻過賀頭入来二番瓜来瓦同清兵労ニ而昏
秋保小折代被差出ニ依之小中指催ス旨仍各集
集同清七番右ノ代昏秋保三番瓦也今日之儀
故中指之帋清書ノ通ニ而直之夫ヲ以指揃之
四ツ瓦右二通共被書改之尓當月之儀故口ノ所ヘ
来五日ヲ書之奥ノ処五月 日ヲ社書可然
旨申入右之通被認了神主ヘ後刻被差帋
可被申入旨申含小漬飯所司代経紹

小中指指揃事行之事

一明和六己丑年四月九日

於所司保忠代保堯亭中指座席繋膏俊清足
史顕業所司代清蔭諸事如例

同月九七日

午刻斗於所司代保堯亭指揃有之尓禄顕
故障ニ付兄屋顕昨日九六日ヲ去昏甫氏来馬仍座席組昏有之
廻之中浄書改之上指揃之浄書有之参集之輩
如中指

一寛政四年壬子四月九二日中指

同月九七日

於右顕声指揃定日也然ル処早朝ヨリ番瓦来瓦
二番瓦来ヲ有差閊也儀而被退其昏ヲ以寛
小折帋被差出ニ依之先小中指之式有之ヲ直ニ指揃
有之参集之輩座席瓦清立起ヲ以保矣壽顕ヲ来
所司代右顕ヲ之諸事如例

一文化十二年四月九日中指

同月廿八日

一早朝先小中指有之者廻者七番厄番厄住保依新
労経更小折紙被取替候小中指之儀如何可仕哉
之旨也仍而左衣者先小中指ゟ指揃之式有
之

一

一

一

四月廿五日朝日歟宮祢宜衆兄季忠依差支替
登頭小折紙被差出依之所司より座席并
経銘へ右之旨を入折帋を在経銘亭于時
経銘指番之小折紙者所司代可附即刻社中
會所迄右新宮祢宜衆兄相替之旨可届置
所司名代健氏より之健氏　右之通之申
有之和洲

一　祖系儀系集於所司亭之上所司代番組
之事段所司より社中へ分帳本儀之
一　嘉永六丑年四月十九日申指　翌巳可清亭
同廿九日指揃系集必頭頭絶清崎所司代
李治諸事如例　三番衆手之馬脛長庄
衆兄秋直故障ニ付替り保造十番衆手ノ馬
舟木庄衆兄等頭取労ニ付替り氏生庄周智
衆兄清石所労ニ付替り重孝ホ三人小折紙
被差出所司代番組書改所司より改社中ニ
被差出

一　嘉永五年四月廿日申前
時日衆ホ中許懸系登ル

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』　請求記号 832-305
ガラス使用

一享和元年五月廿日申指 九日指掛

五月四日

一未刻此一番流初葉保張代保仲一番之右之処外
戚闕死去ニ付保張保仲両人共故障但参宮
被以後例不及小中指表ノ芥篋ニ改此段
所司、被届所司より初葉中へ被届并番組ホ
改之筆へ記之公保仲芥篋ニ改此段
席金相違不及沮替先例之

一文化十年四月十日申指 同月九日指掛

五月四日

五番流葉流卿安三番之右之処故障ニ付参宮
被以後例不及小中指組経ニ改其席ニテ
葉馬此段所司へ届所司より初葉中へ被届
并番組ホ改之筆へ被出

五月四日

一

一 天保九年四月廿三日中指 九八日指揃
五月四日
一 七番流早水流六番右宮頭故障仍保治小折紙ヲ差出
参宮被仰後故例不及小中指所ヲ初筆中ヲ面
筆番把ホ改之筆工ヲ
一 天保十二年四月九日中指 九八日指揃
五月四日
一 四番流筆流五番右彭清故障仍替陳筆ホ所帯
被仰参宮被仰後故例不及小中指相済
可如例

一 筆作ホ面ヲ四日中指 九八日指
揃ヲ面

宝永四年五月

一 當年内通名清周初業也兼而被立名代之
処五月朔日姉若子氏其年去ル仍告此旨於
所司代之許及晩座席有参會兼而
雖被立代忌之人被業之儀無例ニ依之
但馬守清常初業被相勤也清周者
明年可被勤ニ云々但朱宮之祓去滅
之後故障之儀ニ先例有之不苦ニ依
業馬云々

一弘化四丁未年四月十八日於所司異変代才清亭
中指有之座席并必頸重誠頸紙故障ニ有不来
所司代季治ホ系集諸事如例
同月九二日
一三番并衆并九番左恭保依子細所労 恭保二條殿ニ
勤仕二條左府公今朝 九日表向 替り央清六番
發去内々依混雑也 即被窓有之
并衆并七番右初忠頸故障ニ付替り頸盤
九番并衆并四番右重正依社用 九五日為 雑掌役
替り永季并朝日衆并権禰宜衆并維頸
依故障替り當頸正補宜衆并氏彰 九千番并馬
左日於依故障替り経珍右座氏生円
替り保洲ホ小折紙取替ル差出但忠頸義
手ハホ上頸盤ホ衆初衆義次七番并宏頸
頌番ニ同手衆并季治宏頸初代ニ右成
治衆忠頸ハ明年初衆可被勤旨也但依
近例小申指之儀多畢

一同月九七日指揃系集座席并重誠必頸頸紙
故障不来
所司代季治先中指之書物ホ右改次指揃清

書有之朔日番組ハ所司代ホ書改所司ホ
社中ニ可ホ差出旨申入

一嘉永六癸丑年五月朔日辰刻前所司於年頸
亭小中指有之系集座席并必頸重誠
頸紙所司代季治各帷子讀上下 旨趣者二番
并衆并希頸所労ニ付替り清親小折紙被
差出希頸五番右清親二番左也依之中指
清書ノ通ホ直ス指揃之通二通所司代ホ書
改但覧政十一年之通口之所来五日ト書與
之所五月日ト之書ロ被申入右之通被認
了神主ハ漫刻ホ系ハ第可被申入旨
申含今日ハ献之儀無ク

一同日巳刻過又々於同亭小中指有之系集今
朝之通外ニ清崎音通ハ七番并衆并暗直
故障ニ付経元ホ替り保治小折紙被差出服
直候初衆被退次初衆ホ番并等頸小折紙

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』　請求記号 832-305
ガラス使用

被差出同子成麿小折紙被引且一番流矢
流昆頭矢等頭弁ニ対小折紙被引昏リ保
右小折紙被差次右之通多人数之狂言悉
組替了乍然刻限ニ及ル慶刻ニ相成ニ付
所司代ノ座席流之依差圖今朝之通リ直シ
夫ヲ以清書有之相渡

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

競馬中指差掲示中指等

競馬會乘馬中指之事

一 四月廿三日ヨリ也

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

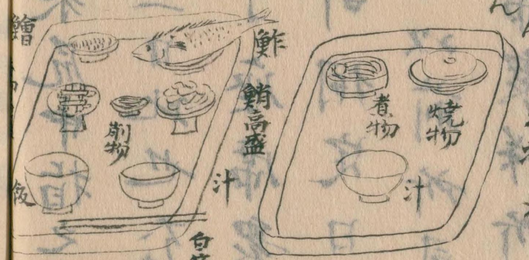
競馬會乘尻中指之事

一四月廿三日比也乙所司
大夫來于座席衆并所
司代之許伺定日限
當日三日以前所司大夫
着上下座席衆并所司代
等江三日觸之儀有之
當日時分觸有之辰剋比也座席衆
并所司代等各表帷子麻上下參集
各相揃之上并次二着座但有社司
則以之為上座了若膳先本膳次二膳
献立如左配膳之人着上下

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

二ノ膳
焼物鯛背切 生姜
汁 すまし
煮物 竹の子 花もも ふきの子ふ

本膳
焼物 さざえ 壺焼 たれ塩 汁 こまつぶ
鱠 鯉大こん 削物 鱠 もり
香物 うど 香物 ごぼう 飯



用朱椀
朱折敷
高盛者
朱腰高

本

注進 来五月吾衆庶参事
一番衆
古注進如件
明治四年四月 賀茂縣貫名

一番衆

注進 来五月吾衆庶参事
賀茂縣貫名
古注進如件
明治三年四月 若狭 貫名

注進 来五月朔日衆庶参事
倭文庄 貫名

手鳥毛子馬口斜

小折紙書様
三通共
明治二年 月 日

注進　来五月吾衆成事
一番衆
賀茂縣書生
賀茂縣書生
右注進如件
明治三年四月　若狭　實名

一番衆

注進　来五月朔日役衆成事
傍文庄

右注進如件
明治三年四月　賀茂縣書生

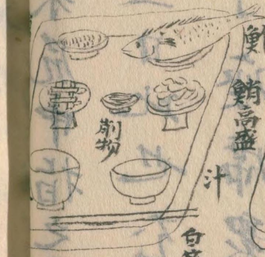
乞鳥衆ヲ鳥ノ數

實名

御紙書様
三通共
明治三年改

注進　来五月吾衆成事
一番衆
右注進如件
明治三年四月　賀茂縣書生

一番衆
實名



大夫来五月吾衆成事
四月廿本
鶏高盛
汁
白箸
朱腰高
饗応會衆

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』　請求記号 832-305
ガラス使用

右注進如件

明治二年四月　賀茂県貫名

沢ニ中酒一献　盃ハ用ニ飯器ノ蓋一ヲ

強飯

沢ニ塗盞　三ツ　御酒　九三献　三種肴　たこ　杉ノ子　ふくめ

沢ニ湯ヲ　撤膳事ヲ

所司大夫　自十手被差出競馬

乗尻之小折紙　并足決乗尻

之小折紙硯箱　筆白軸一對墨龍形若龍形無之時ハ以紙巻捻也

料紙折杉原一帖等被出之

注進　来廿日乗尻之事

今乗五月五日ト書ス

七番衆

右注進如件

安永二年四月　右衛門佐

上包

七番衆　右衛門佐

注進　来廿日乗尻之事

今乗五月五日ト書ス

倭文庄

右注進如件

寛文二年四月　因幡介

上包

因幡介

一番衆

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』　請求記号 832-305

ガラス使用

右注進如件

明治二年四月　賀茂縣主貴多

沢ニ中酒一献　盃ハ用ニ飯器ノ蓋ヲ

強飯

沢ニ塗蓋　三ツ　御酒　九三献　三種肴　たこ　投ノ子　ゑひ

沢ニ湯ヲ　撤膳事了

所司大夫自十手被差出競馬

乗尻之小折紙并足決乗尻

之小折紙硯箱　筆白軸一對墨龍形若龍形無之時ハ以紙巻捻也

料紙折杉原一帖等被出之

注進　乗替足決乗

五月廿六日

倭文庄

右注進如件

寛仁二年四月　日　図帳

注進　来五月五日乗尻之事

一番衆　主膳正清子

雅楽助保布

右注進如件

寛仁二年四月　日　若狭　誰

七番衆

右衛門佐

一番衆

上包

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』　請求記号 832-305

ガラス使用

右小折紙座席衆一覧有之ヲ
先所司代硯箱ヲ右へ直シ蓋ヲ取
氷ヲ入レ墨ヲ摺リ筆一對ヲ
取上ケサヤヲヌキカケ見テ我可書
ト思フ筆ニ墨ヲ含ミセ硯ニヒタセ
カケテ置キ次ニ料紙ヲ取リ一枚横折
ニシテ座席衆へ可認哉ト相尋ルノ
上被認之先ツ一番衆ヨリ十番衆
迄五日乗尼ノ名前斗書之如左

一番衆 明治三年ヨリ姓ヲ資名ニ改ル
三美濃守
四左兵衛佐
二番衆
八東市正
五民部少輔
三番衆
亢安藝守
主殻助
四番衆
主隼人正
幸縫殿頭
五番衆
亢左衛門佐
九兵部丞

何番衆ト書クハ名ヨリ一字下ケテ書ノ
下ケリ右認了座席
衆へ被為出座席衆
一覧之上半紙ヲ竹紙程ニ
切リ座席ノ次第ヲ以テ
二十人ニ付紙ス下時所司
代座席衆ノ差圖ニ
付テルヒナリ但近年付紙ノ
無之唯一ヨリ二十迄ノ指圖
レタガヒ書件テルハ也
又折帰ヲ横折ニメ一ヨリ
上ニテ一二三付ノ次第ニ名計
廻リ書之了立カヘリテ名乗
書セテル如左

所司代認了座席衆ヘ
差出サル座席衆一覧ヒ
組合ヲス左一家ノ間ホ
アレハ上ケ下ゲホノアリ
座席衆ノ差圖ニ從ヒ
所司代一二ト十番迄
名ノ上ニ書付テル也
右了座席衆一覧ノ上
竪紙ニ清書セテル如左

一門佐 重信
岐守 相平
濃守 保祐
兵衛佐 秀久
左衛門佐 清具
少輔 清去
衛尉 保建
中正 保全
部丞 保木
松大夫 清香
後守 清長
祝助 保堅
人正 保章
番允 氏愛

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録．第87冊』　請求記号 832-305　　ガラス使用

右小折紙座席衆一覧有之ヲ
先所司代硯箱ヲ右へ直シ蓋ヲ取
氷ヲ入レ墨ヲ摺リ筆一對ヲ
取上ケサヤヲヌキカケ見テ我可書
ト思フ筆ニ墨ヲ含ミセ硯ニヒタセ
カケテ置キ次ニ料紙ヲ取リ一枚横折
ニシテ座席衆へ可認哉ト相尋ルノ
上被認之先ツ一番衆ヨリ十番衆
迄五日衆石ノ名前斗書之如左

一番衆　明治三年ヨリ姓ヲ資名ニ改ル
三美濃守　姓ヲ資名ニ改ル
四左兵衛佐
二番衆
八東市正
五民部少輔
三番衆
西玄蕃允
十三主税助
四番衆
十三隼人正
十六縫殿頭
五番衆
九左兵衛門佐
十四民部少輔

ヲ付テルヒナリ但近年付紙ノ
一無之唯一ヨリ二十迄ノ指圖
ニシタガヒ書キテルハ也
次ニ又折帋ヲ横折ニメ一ヨリ
二十ニテ一二三付ノ次第ニ名ヲ
一通リ書之ヲ立カヘリテ名乗
ヲ書セテル如左

一左衛門佐　重信
二壹岐守　相平
三美濃守　保祐
二左兵衛佐　秀久
三帯刀左衛門　清貞
四民部少輔　清去
三右兵衛尉　保建
四東市正　保室
五兵部丞　保木
五千代松丸　清香
六丹後守　清長
六主税助　保室
七隼人正　保章
七玄蕃允　氏愛

所司代認ヲ座席衆ヘ
差出サル座席衆一覧ニ
組合ヲスル一家ノ間ホ
アレハ上ヲ下ゲホカヲアリ
座席衆ノ差圖ニ從ヒ
所司代一二ト十番迄
名ノ上ニ書付テルハ也
右ヲ座席衆一覧ノ上
竪紙ニ清書セテル如左

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』　請求記号 832-305
ガラス使用

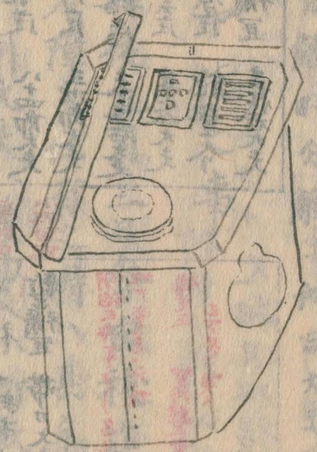
廻来五日乗尻之事

一番　左　左衛門佐重信　明徳三年ヨリ　廿年勤之
　　右　壹岐守相平　同紙也
二番　左　美濃守保祐　右ノ点ハ
　　右　左兵衛佐秀久　今日掛ル
三番　左　帯刀左衛門清貞　ニテハナシ
　　右　初代右兵衛尉保建　上ヲ右
四番　左　民部少輔清玄　指揃ノ時
　　右　東市正保至　左方右方
五番　〃　〃　ノ差弁浄
　　〃　〃　書ノ掛ル
　　〃　〃　点也

右所廻之状如件
正保三年四月日

廻来五月五日ト書ノ事モアリ又右所廻之状如件ノ一説ニ右所定之状如件ト書テモ能由アレ共近来書ノ人ヌケシ又月日ハ四月日ト書ハ五月日ト書ノ倒モアレ共悪キ由也

右浄書ノ礼紙上包ホクシテ組付三方ノ上ニ三ツ盃三度土器ノ左ニ置ノ向ニ居ル
搗栗昆布各五克小角ニ載ス如左



銚子　冷酒　浄衣着　加　上下　或ハ器ノ錫ノ
　　酌之　　　　　モアリ

献之儀先ツ席上席衆ノ上首ヨリ始メ次第ニ轉ノ所司代ニ至リ各三献了所司大夫納メ也
次ニ吸物　蛤　御酒肴三種外ニ一二種被出之数献之後各退出ス所司代

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』　請求記号 832-305
ガラス使用

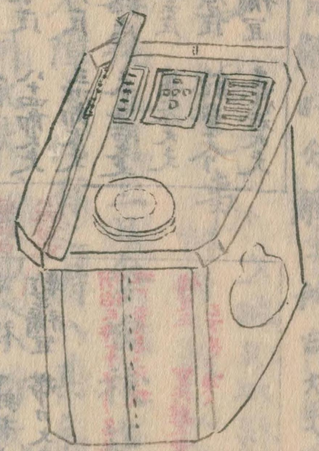
廻来五日乗馬之事

一番　左　左衛門佐　重信　明徳ニヨリ　此ノ時ノ名
　　右　壹岐守　相利　礼紙上包　同紙也
二番　左　美濃守　保祐　右ノ点ハ
　　右　左兵衛佐　秀久　今日掛ル
三番　左　帯刀左衛門　清昇　ニテハナシ
　　右　右兵衛尉　保建　初代　上ノ右　指揃ノ時
四番　左　民部少輔　清会　下ノ左　左方右方
　　右　東市正　保到　ノ差符浄書ノ掛ル点也
五番　〃　〃　〃

右所廻之状如件
正保三年四月日

廻来五月五日ト書ノ事モアリ又右所廻之状如件ノ一説ニ右所定之状如件ト書テモ能由アレド近来書ノ人少ナシ又月日ハ四月日ト書ヘシ五月日ト書ノ倒モアレド悪キ由也

右浄書ノ礼紙上包ホクシテ組付三方ノ上ニ三ツ盛三度土器ノ左ニ置ノ向ニ居ル打
搗栗　昆布　各五充小角ニ載ス如左



銚子　冷酒　浄衣着　加　上下　或ハ器ノ錫ノ
　　酌之　　　　　　　モアリ
献之儀　先ツ席（座ヵ）　席衆ノ上首ヨリ始メ
次第ニ轉メ所司代ニ至リ各三献了
所司大夫納メ也
次ニ吸物蛤　御酒肴三種外ニ一二種
被出之　数献ノ後各退出ス所司代

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』　請求記号 832-305
ガラス使用

足汰乗尻之小折紙ヲ以テ番立一通
認之料紙掲焉
横折

表

五月朔足汰乗尻
侍文庄　所波守
金津庄　伊豫權守
安志庄　大三部大夫
土田庄　常陸權介
福田庄　石見守
胜長庄　八幡先大夫
船木庄　八十部大夫
宮川庄　三次部大夫
淡路庄　未之若大夫
出雲云庄　基之介大夫
竹原庄　能登介
正禰宜　妻鹿若大夫

裏

同祝　越中介
權禰宜　三河權守
同祝　鸚吉大夫
權禰宜　權之介大夫
同祝　河内權守
權禰宜　妻鹿之大夫
同祝　下總權守
權禰宜　帶刀大夫

右之通認之着座ハ書ノニ不及也此ヲ
所司ヘ渡置ノ所司ヨリ社中執筆ヘ遣ス
也其外今日ノ書物ハ一式所司代懐中メ
退下也

一差揃ノ日限治定ノ上所司大夫三日
觸有之本儀トイヘ共今多ク中指ノ日
座席聚相談ノ上日限治定有之凡ソ八
ニハ三日觸時分觸ス所司大夫入魂也

小中指之事

一中指以後五月三日參宮夜迄ニ乗尻
ノ内差障ノ仁有之時ハ其手ノ若役
此段所司大夫ヘ披申ヘ小折紙取替ル
依之即刻所司大夫座席聚所司代
等ヘ案内有之小中指被相催座
席聚所司代共續上下帷子或ハ帷子
所司亭ヘ參集其儀差揃ニテ
有小中指時ハ先ツ中指ノ横折紙ヲ
ヲ改ノ次ニ竪紙ノ通ヲ書改ル又差
揃以後小中指ノ凡ソハ先ツ横折紙共

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』　請求記号 832-305
ガラス使用

ノ直　次ニ中指ノ廻シ一通差揃ノ左右
廻ニ通等ヲ書改ラル、也但差揃以
前ノ片竪紙ノ廻シ斗書改ニテ横折紙
共ハ直シニテスミ又差揃以後ノ片モ
差揃ノ左右廻ニ通斗書改ニテ其
余ハ直シニテスム例モ有之何レ時宜
ニヨルベシ右事ノ小漬汲ハ酒肴ハ
差揃ニ同シ但献ノ儀ハ無之

一神主差符内覧以後晦日ノ夜
有小中指時ハ五月朔日所司代
祝儀ニ神主ヘ行向ノ時此段ヒヤ入
（安永二経茂所司代ノ時如此）
又朔日以後三日迄
ニハ中指ノ片ハ五日ニ所司大夫祝儀
ニ神主ヘ行向ノ片其段ヒヤ入（安永四
所司代ノ壽保五日ハ升後勤也）（所司文準表ニテ代氏諫狭勤如此）
且書改ノ差符二通所司大夫

代宮中ヘ持参シテ取替ラル、也

一三日参宮被以後小中指有之例
（延享四年五月四日於所司或文亭有之）

指揃之事

一四月廿八九日比玄所司大夫ヨリ
三日觸并時分觸等有之本儀ト
イヘ共今多ノ中指ノ節座席衆
相談ニテ日限治定スヘシ三日觸時分
觸ホ入魂ニテ無之當日刻限（九巳刻比）
座席衆（表帷子）續上下所司代（表帷子麻上下）
各参集相揃ノ上所司代硯ヲ右ヘ
直シ硯ノ蓋ヲ取リ硯ノ右ニ置キ水ヲ
入レ墨ヲ摺リ筆一對取上ケサヤヲ
スキカケテ見之可書ト思フ筆ニ
墨ヲ含（フク）ニセ硯箱ニモタセ置キ料紙

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』　請求記号 832-305
ガラス使用

ヲ取り中央ニ直シ中指清書ノ上包
礼紙ホヲ除キ座席衆へ今一應
御吟味可有之哉ト被ノ係之座
席衆一應相調ベ了所司代へ渡ス
ヲ時所司代左ニヒラキ置キ五日ノ
差符二通被認之先ツ左方次ニ
右方（此差符右来散位書トゝヘモ
迚来ハ散位ノ二字ヲ除カル）ヲ左
方ノ差符認ル片ハ一番ヨリ十番ニテ
一人々々認ルノタヒ中指清書其人ノ
名乗ノ上ノ字ニ点ヲ掛ケ右方ハ下リ
字ニ点ヲ掛ル也其圖中指ノ所ニ
見ユ先ツ左方ノ差符清書了座
席衆へ差出シ一覧ノ上礼紙上包
ヲ加ラル上包ニ左方ト書ク右方モ
同断但シ上包左方ヨリ一字下ケニ
右方ト書之其圖如左

左方

一番　賀茂縣主　延保
二番　賀茂縣主　白顯

右所廻之状如件
明和六年四月日

（明和六年ハ本文ニハ五月五日ト有之也）

慶應四辰年ヨリ来ル五月五日ト改ル事

右方

一番　賀茂縣主　文幸
二番　賀茂縣主　苗清

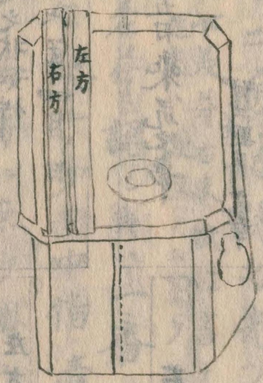
右所廻之状如件
明和六年四月日

廻来五日乗尻之事

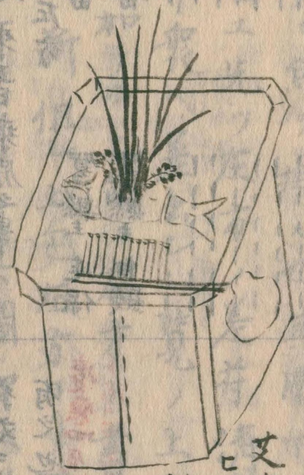
廻来五日乗尻之事

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』　請求記号 832-305
ガラス使用

左右ノ差弁出来ノ上一ツ盃ノ三方ニ載スル盃ノ左ノ方ニ二通共ニ載セ上座ヘ直シ置キ硯料紙ホウ撤了献之儀有之
今日ハ依例所司代ヨリ始メ夫ヨリ座席
翌上首次第所司大夫納メ也各三献



一ツ盃三度ニ當
一枚



御酒 温酒錫ニ入 勧人 着上下
又ハ浄衣
無カ

右献了小漬飯ニ出ス献立凡如左

焼物 新鰯
汁 鯛 ニツ盛
白そ〻
雑物 人ノ
飯

菜碗 日光膳ノ類ヲ用ユ

御酒 肴三種 外ニ鮓 今一種見合セ 数献

右了各退散但所司代ハ差符
二通ホ懐中ノ退出也

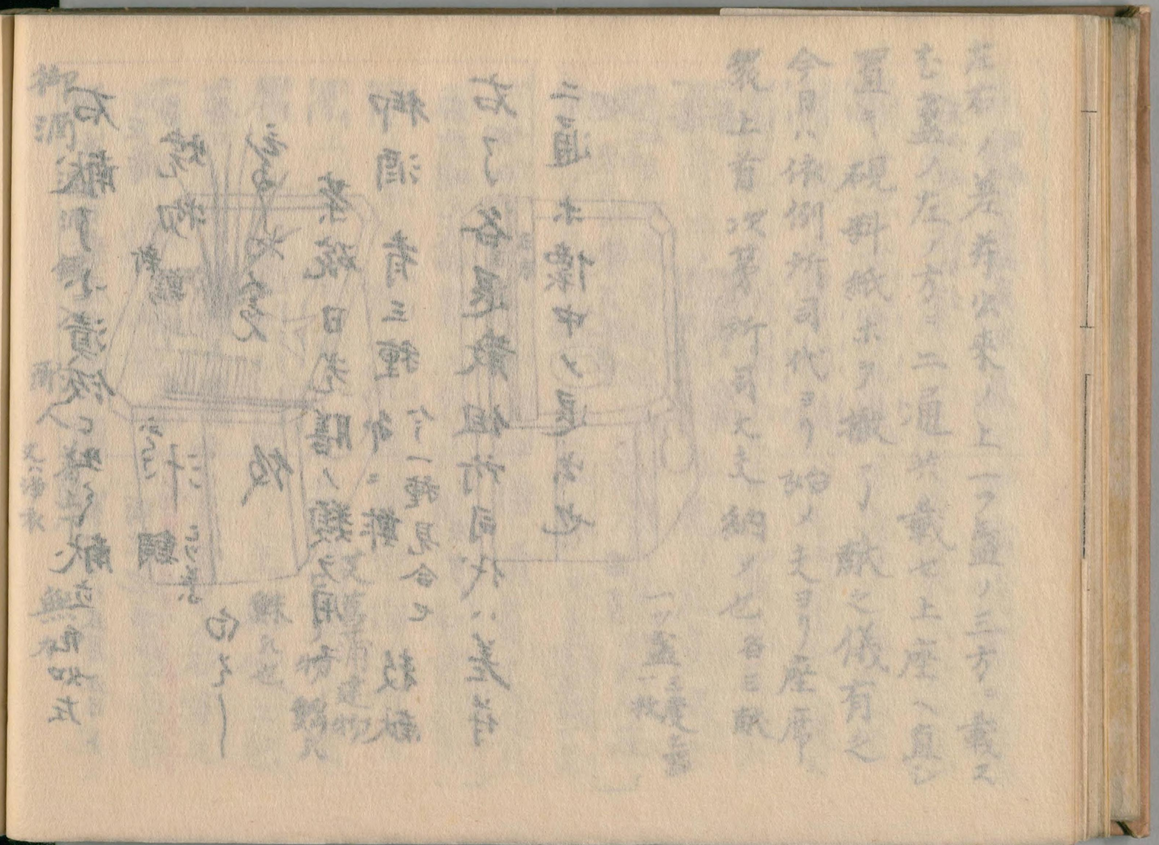
一 年々競馬衆尻中指指揮差小中指

一 寛保四癸亥年四月九日
於所司李南亭競馬衆尻中指座席
衆清茂氏基普俊所司代李脩也
同月廿八日
於所司亭指揮座席衆所司代六間前
但普俊依故障
不參ノ

一 延享元甲子年四月

同月廿九日
午刻許於所司地久亭指揮座席衆
清茂庸清氏基普俊所司代内顕也

一 同二乙丑年四月廿五日
今朝飯後於所司清底亭中指座席衆
清茂庸清氏基普俊所司代富清也



国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』　請求記号 832-305
ガラス使用

同月廿七日
今午刻許於所司清辰亭指揮座席衆
所司代不同前
一同三丙寅年四月廿三日
於所司成文亭小中指座席衆清茂庸清
氏基善俊所司代盛顕也
同月廿八日
於所司成文亭指揮座席衆所司代同前
五月四日
今夜於所司成文亭小中指有之旨趣者一番
左保崇儀忠学等名代之役魚政頼倩文之
馬友名代と無之旨被相表保伸小折紙依
指示也来宝祓以後改参表役先例
魚社之保崇役を一番之左友名代社之時之神
事之滞なき座席衆領掌ニ而小中指改候
一同四丁卯年四月廿日
於所司庭顕亭中指座席衆清茂庸清
氏基善俊所司代李脩也
同月廿八日
於所司庭顕亭指揮座席衆所司代同前
一寛延二己巳年四月廿四日
於所司保也亭座席衆清茂庸清氏基
善俊所司代者善俊兼帯也
同月廿八日
於所司保也亭指揮座席衆所司代同前
一同三庚午年四月廿日
於所司庭顕亭中指座席衆清茂庸清

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』　請求記号 832-305
ガラス使用

氏基普俊所司代存顕卜也

同月廿八日

今日指揃可有之旨兼日治定之処昔月昔
櫻町院様崩御ニ付競馬會延引依之指
揃ヲ近日ニつゐて競馬會被執行之度
右催之旨去比俊ヲ先年元文二年四月廿日
中御門院崩御ニ競馬會ホト近日ニ付不歩
之儀ニ付互合之元年処神料ニ俊ハ如例
被下候ニ付若當代中競馬會近ク有之歟
病ニ有之時ハ之段主名代ニ神祭ニ参ル
次第ニ之ニ付兼而論神料ヲ其仁ニ一つら
古候一社ニ二重ニ参ル由ニ而中指ヲ
如例被下候指揃ニつゐて競馬會ニ参ル
者ニ付右催ニ一度ニ而肩清ハ紀ニ
六月廿一日

競馬會ニ来朔日五日例ニ通ル旨ニ付

由ニ而

同月廿七日

競馬會兼元之内長季俊ヲ以筆物案
ニ刻先達ニ兼而ニ被仰渡ニ
候ニ付早ニ上ル仍而参ル氏置巡
左ニ勤ニ付先達ニ九ツ兼元ニ被渡候
之内央顕俊自分之馬被上氏置之神代勤仕
之且又四番兼元長季之者ニ手中ニ兼而
ニ被渡候ニ付不上達ニ兼元通
之垂髪初ニ仁神左衛門ニ指定
ル子小中指被仰渡ニ付参ル氏置
同月廿八日

朝飯後於ニ禁庭ニ指揃座席之儀
ホ門前 七月朔日足汰 五日競ニ参ル
同四年未年四月

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

一 宝暦二壬申年四月廿六日
於所司儀顕亭(但於保庵宅也)申指座席衆
庸清 産幸 普俊 清足(但産幸清足新加也)所
司代敬顕(本也庵上下)各唯子(左三日觸時分觸示
之)各条集次第後祝儀之始仮出之条次
二ノ膳 焼物(こいもの) 汁(すまし) 香物(木のこ 生姜)
すまし(汁) 大根(だいこ)
本膳 飯 香物 仮
味噌 香之煎(庵点 白ゐこ もとゝり) 茶(をちゃ)
吸物(すまし)

味噌数之後撤指膳之時 敬顕亭 代書物ヲ認ル
敬之後 三ツ盛之方 組付 三方(賛斗昆布 搗栗
銚子(浄衣 加上下
着
年老之初之次第ニ悩ム故 時出来之
書物載置于三方献了後 亭代ヨリ通
但今ノ指揃之日限明廿八日治定ニテ
同月廿八日
於所司俊顕亭(他於保庵宅也)指揃依之午刻前
ニ座席衆 産幸 普俊 清足所司代敬顕
本(唯子麻上下但座席 庸清不参ノ先所司代
指揃之浄書左右二通 披露了有献之後
一ツ盛之方 肴(雉物 菖蒲文本建之) 銚子(像
加上下 所司代初之年老ヘ悩ム故 時浄
ム書物載玉手三方幸了
吸物(これもの たこ) 加漬物(切生姜 香物 沢庵
肴二種(たこ うなぎ すこしもの) 外ニのり 数々仔遅敬

一同三癸酉年四月廿二日
於祈司庭頭亭中指系集之掌座席衆
座幸 普俊 清足 祈司代 侍 俯 木各表
帷子 麻上下 但清足ハ頭人ニ付烏帽子大 三日籠
附分籠ハ有ル各系集之上祝儀之朝飯出
其品 焼物 甘ろうたう
二ノ膳 煮物 竹の子 什 多つま 垣ごう
吸物 竹の子 いりこ
本汁 打こ うろの魚 汁 なこ ごぼう 竹
肴 鯉 たこ 汲
右酒肴之種々 数之打まだ 数の子
吸物 多くり 生貝 ごぼう
本酒数反後撤据有之代書物之綴
有数之後物御 合之指膝ニ而 着座之
酒宴之事

同月廿九日
於祈司庭頭亭指膝依之午刻ニ座席衆
座幸 普俊 続表帷子 清足 頭人ニ付烏帽子大帷子浄衣ノ下 祈司代
李 俯 表麻上下 本系集 先祈司代浄書左右ニ
面安据之有献之儀一ツ盃三方 有 ニレ物 蔦
艾 本建之 銚子浄衣加上下 祈司代ハ初御酌
吸物 石休 小漬 汲 生物 鯛 刺身 本之
うの物次第 肴 打まこ 着到一打而すゝ
打而後引子ハ 数反後退散

一同四甲戌年四月 清足重服

一同五乙亥年四月廿四日

一
於所司元宗亭中指座席衆庸清清定
史顕但史顕後ろ各表帷子麻上下但清定
当年ノ新加 所司代祖季 後ろ頭人等烏帽子大帷子
浄衣ホ条集如例 産幸 普俊ホ不参ラ

同月廿八日
於所司元宗亭指揃座席衆庸清産幸
普俊清足史顕所司代祖季ホ各帷子濃
上下当代
ろ麻上下清足ろ烏帽子 条集諸事如例
大帷子浄衣ノ下

一
同六丙子年四月廿五日
於所司李南亭中指座席衆清足産幸
所司代直矢 陳朝ホ亨 条集普俊史顕
ホろ不条
同月廿八日
於所司李南亭指揃座席衆清足所
司代直矢代直安ホ条集産幸ろ不参ラ
普俊史顕ホろ依法ラ入来ル

一
同七丁丑年四月廿三日
於所司直茅亭指揃座席衆普俊清足
清足ろ依ラ参
ろ条所司代直矢ホ也指揃ろ事廿八日依之ル

同月廿八日
於直茅亭指揃座席衆普俊清足表帷子
續上下
所司代直矢麻上下ホ也

一
同八戊寅年四月廿二日
於所司賀顕亭 間狭ク
俗顕亭ル也中指座席衆
産幸清足史顕所司代庭顕ホ也普俊
依所労条指揃日依事廿八日依之ル

同月廿八日
於所司賀顕亭指揃座席衆産幸普俊
清足史顕表帷子續上下所司庭顕麻上下ホ条集

一
同九己卯年四月廿三日
於容直亭但所司ろ安也中指座席衆産幸
普俊清足史顕所司代容直不可直安代
同月廿

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』　請求記号 832-305
ガラス使用

一同十庚辰年四月廿四日
於文章院中指座席衆産幸　普俊
清足所司代容直并所司季備代寅室ホ系
集於座席衆記令之内顕之一家多座間
ハ名十番右質顕相指何連歟左入魂之上面
をう後智名中又列和季入魂之上和季
小折紙ニ書ク諸事如例
同月廿八日
午刻許於文章院中指揆座席ハ
ウ代ホ如中指
一同十一年己巳年四月

同月廿八日
於所司保鹿代文章院中指揆座席衆
光宗普俊所司代親顕ホ系集清足
史顕ホ不系
一同十二年午年閏四月廿一日
於容直院中指座席衆普俊　清足史顕
所司代清蔭并所司精顕代和季ホ系集
如例
同月廿六日
午刻許於容直院指揆座席衆所代
ホ如中指諸事如例
一同十三癸未年四月廿四日
於所司道清代清金院中指座席衆光
宗清足史顕并所司代應氏ホ系集諸
事如例
同月廿七日

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

於清金亭小中指有之旨趣者一番衆衆尓
和清介弟死去并昏初清子小折紙ら出
ら組改ら之翌日ら之沈衆尓淡路庄和清昏
甫氏也座席衆清ら史顕(雄子上下)所可代
應氏麻上下ホ集ホ書物小漬ホ酒ホらゑ
同月廿八日
未半刻許於清金亭指揃有之座席
衆清ら史顕(雄子上下)所可代應氏麻上下ホ
集差等淨書有之ヽ盛艾葛補建物ニ
熱ゑ小漬ホ酒ホ如例ら出ら
一 為明和元
同十四甲申年四月廿四日
於所可富季亭中指座席衆光宗普
俊清ら史顕(雄子上下)所可代祖季ホ集諸事割
指揃ロ仰廿九日ら宿ゑ之
同月廿九日
於所可富季亭指揃座席衆光宗普俊

清ら并所可代祖季ホ集諸事如例
一 明和二乙酉年四月廿四日
於所可代田兼亭(但お數之亭也)中指有之座席衆
普俊清ら史顕并所可代富季ホ集諸
事如例
但當年ら顕一家多九番衆尓質顕陳顕
之不ゑ席刷組合不出来并両人之内面をの
ゑら其手之若役をゑ入刻両人入来被ト
罗ら名ゑ被ひら面ら仁称ゑゑ并今
ゑ人次座ニ座顕ゑゑ行并次仁ゑ人ら
ゑら名ゑ座ニ座ゑ右ホ如ゑ人ら上
当ホ仁ゑゑ被ゑ一ら一皆ゑ一ゑ面ゑゑ
ゑ一人ら名ゑ退ゑ人ホ氏普ゑ并ゑ
刻当紙ゑ座ゑ名ゑ退并設会出来仍及
申刻并ゑ也
同月廿七日

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

未刻許於布引代田兼亭（但於敷文指揮
座席衆光宗 普俊清足 史顕（表帷子所
司代富季麻上下 ホ集 差弁淨書了 一ツ
盃 艾菖蒲 建物 ヲ 敷之 其有之了 小漬
ホ而ホ例

一
同三丙戌 筆 四月廿一日
於布引代保氏亭（但於保鹿亭也）中指座席衆 普
俊清足 史顕 并所司代清蔭ホ集 於事例
同月廿七日
巳刻斗於保鹿亭指揮座席衆 并所代
ホ中指日前諸事如例

一同四丁亥 筆
於所司保潔亭中指座席衆 普俊清足
史顕 并所司代 祖季諸事如例 但今日者
ホ巡見 并參着所々如此 以呂 寿清足 ヲ 実ニ名
去ル廿三日 ヲ 上申刻斗ヒ 候ラ

一
同月廿九日
申刻斗於所司保潔亭指揮座席衆 普
代ホ中指ヲ 諸事如例

一
同五戊子 筆 四月廿三日
於所司保起代義保亭（但於故舊
季亭也）中指座席
衆清足 史顕 并所代應氏ホ集諸事例
同月廿七日
申刻斗於故舊季亭指揮有之座席衆 普俊
清足 史顕 并所代清蔭ホ集 於事例

一
同六己丑 筆 四月廿一日
同月廿七日
於所司保志代保光亭中指座席衆 普俊
清足 史顕 并所代清蔭ホ集 於事如例
午刻斗於所司代保光亭指揮有之ホ祿
顕故障ニ付兄 昨顕 昨日 亭去 晉甫氏 乗馬 仍座席

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』　請求記号 832-305
ガラス使用

祖哲有之廻之中浄書改之上指揃之浄書
有之集之事中指日前喜并如例
一同七庚寅年四月廿一日
於所司方清代保光亭中指座席衆
光宗普俊清足史顕所司代言俊(各表帷子麻上下)
下ホ集祝儀之例飯了所司代書物
ら給ら我ら交如例一筆老ら右始所司代例之
了ら指揃ら事廿七日治定ヤ
同月廿七日
未半刻斗於所司代保光亭指揃ら集
之事中指日前記事ら例
同八辛卯年四月廿一日
於私宅(清足ら事之)所司代顕中指座席衆光宗普俊
清足史顕所司代清蔭(各表帷子麻上下)ホ集
諸事如例一ら指揃ら事廿七日治定ヤ
同月廿日

一
同九壬辰(吾安元)年四月廿三日
朝飯後於所司亭(他ら保起亭ヤ)中指座席衆
普俊清足史顕直矢所司代兼統ホ集ら
依倹約朝飯ら我ら我斗但為祝之吸
物ら後ら我斗ら通ら
同月廿八日
昼飯後於所司亭(很ら保起亭ヤ)指揃座席衆
普俊清足所司代兼統ホ集差弁浄書之
上ニ巻盃艾菖蒲之建物ニ我ら交ら例一ら
依倹約ら為ホ無之
一安永二癸巳年四月廿日

於私宅（ほそこ）弓兼資（ゆみかねすけ）中指座席衆普俊（ちかとし）清足史顕直矢祈弓代兼茂（かねしげ）各帷子（かたびら）麻上下（あさかみしも）ホ参集諸事（しょじ）例

同月廿六日

於私宅（ほそこ）小中指（こなかゆび）ヲ（を）ク（く）吉顕（よしあき）去五日薬院（やくいん）之内

當（あたる）之右清芳（きよよし）従父姉（じゅうふし）死去（しきょ）ニ（に）ヨ（よ）リ（り）暫（しばらく）甫（はじめ）氏（うじ）小

折紙（おりかみ）改差（あらため）依（よる）之朝餉（あさげ）後（のち）出仕（しゅっし）ニ（に）ヨ（よ）リ（り）参集（さんしゅう）之

事中指（ことなかゆび）日前（にちぜん）甫氏（うじ）座清芳（きよよし）ヲ（を）同座（どうざ）ヲ除（のぞく）

清芳其所（そのところ）ヘ（へ）入甫氏（うじ）差符（さしふ）ヲ（を）書（かく）ト（と）雖（いえども）事（こと）ヲ（を）

小漬（こづけ）ヲ（を）汚（よごす）ホ（ほ）ニ（に）出（いだす）ヲ（を）先持（まずもつ）日前（にちぜん）但（ただし）数（すう）之文（ぶん）ヲ（を）無

之（これなき）且（かつ）小中指（こなかゆび）之時（とき）宿用（しゅくよう）之品（しな）不及（およばず）帷子（かたびら）ヲ（を）ク（く）

績上下（うえしも）ヲ（を）ク（く）ニ（に）集（あつまる）ヲ（を）ハ（は）ヤ（や）ク（く）ル（る）処（ところ）祈弓代（きゅうだい）兼茂（かねしげ）云

先掌次紙（まずしょうじがみ）ヲ（を）祈弓代（きゅうだい）私（わたくし）ニ（に）託（たく）ス（す）小中指（こなかゆび）ヲ（を）袴（はかま）ヲ

ヲ（を）有之（これあり）ヲ（を）上（うえ）ハ（は）不着（ちゃくせず）ヲ（を）無改（あらためなく）ヲ（を）以（もって）上下（かみしも）

之（これ）ヲ（を）ク（く）ル（る）ヲ（を）ハ（は）ヤ（や）ク（く）一統（いっとう）上下（かみしも）ヲ（を）ク（く）ル（る）ヲ（を）ハ（は）ヤ（や

一同四乙未年四月

同月

同月

五月三日
朝飯後早々於勾代氏陳亭小中指有之
旨趣者十番之左季存故障ニ付暫り延保
小折紙ニ差出ス也座席衆普俊清足史顕
所司代壽保代清蔭木梨集左保之一家
多座席ニ遠有之故金鉾ヲ銀直ニ差替
二通書改之淨書出来之上如例ノ汚小清ス
ら出之故ニ小中指ニ不無之次第書ニ而ハ見
ハ悪ク今日ニ所司ニ而ノ調ら出ニ而ハ
右魚及ニ候ニ而ハ名別今ハ小ら出ニ事ニ
故ニ而ハ若シ不ら出ニ而ハ故ニ而ハ
ヤ之ニ而ハ例ニ而ハ故ニ而ハ事

一同五丙申年四月廿三日
於所司文幸亭中指座席衆清足史
顕所司代安清木梨集諸事如例
同月廿七日

於下社文幸亭指揮糸集之事殊勝前

一同六丁酉年四月

一同七戊戌年四月廿四日

於所司代保博亭中指座席衆善俊清

見兼顕清立証堅并所司代秋保ホ集衆御

同月廿八日

於保博亭指揮參集之事中指同前

同月廿九日

於保博亭小中指有之旨趣者九番左

同月

安顕并竹原庄衆成序顕故障ニ付安清

替顕重序顕替重尚小折紙ヲ差出依之

ニ催之座席衆清見史顕清立証堅所代

秋保ホ也組頭ヨリ所代中指ヲ通情書ヲ

又指揚ヲ通通ニ通淨書有之ヲ吸物ニ濟

汤ホヒ為ニ秩ヲ俊ヲ安ヲ

一同八己亥年四月廿四日

於所司代保達亭中指座席衆清見史顕

清立証堅所司代武顕ホ糸集ノ例

同月廿八日

於保達亭指揚糸集之事中指同前

一同九庚子年四月

同月

一天明元辛丑年四月

同月

一同二壬寅年四月廿四日
於所司代保博亭中指座席衆氏神
祝清立清足誕堅所司代保要木条集
諸事如例
同月廿九日
於保博亭指揃座席衆清立清足

所司代保要木条集如例誕堅依社用不条

一同三癸卯年四月廿三日
於所司代封清亭中指座席衆清立清足
誕堅所司代氏都木条集如例
同月廿九日
於封清亭指揃条集之事中指日前

一同四甲辰年四月廿二日
於所司員雪代古顕亭中指座席衆
清立清足誕堅所司代完顕木条集例
同月廿八日
於古顕亭指揃条集之事中指日前

一同五乙巳年四月廿四日
於所司始顕代古顕亭中指座席衆
清立清足誕堅所司代完顕依雪代封清立清足之事入魂木条集如例
同月廿八日

於古顕亭指揃条集之輩中指口前

一同六丙午年四月十九日

於所司経宜亭（但於封亭中指座席而也）清立清足経堅両所司代経堅縁諸事例

同月廿八日

於封亭指揃条集之輩中指口前諸事例

一同七丁未年四月廿二日

於所司保忍亭中指座席衆清立清足経堅両所司代補清（各帷子木綿上下）条集之上朝飯之汁有之一種三献并三ツ盛三方土器（但銚子弐本加上下）座席衆上首ゟ始之次第ニ銚子弐本加上下）座席衆上首ゟ始之次第ニ所司代次ニ所司納之ゟ吸物汁有之種外ニ菓子弁酒ゟ上各退散

同月廿八日

於所司保忍亭指揃条集之輩中指口前（但帷子襖上下所司代ハ麻上下）所司代差符左右二通浄書ゟ認之候有之一ツ盛三方ニ菖蒲連物銚子（但錫加上下）不及依例所司代ゟ始之順ニ座席衆之上着吏ゟ次第流巡ニ而所司ゟ吏納ル吸物ニ汁有之外如例

一同八戊申年四月廿一日

於私宅（清立清足両人之宅）中指座席衆清立清足経堅両所司代宅顕所司各経代（但下向ニ付留守）所司代宅顕所司各経代逢清諸事如例

同月廿七日

於私宅（清立清足両人之宅）指揃参集中指口前諸事如例

廿八日

入夜於私宅（清立清足両人之宅）小中指旨趣者七番右衆亮貫顕女死去ニ付暫り腔顕ニ折紙ヲ入ル

必参集之輩指揃同前

一寛政元己酉年四月十八日
於吉顕亭所司表中指參集之輩座席
裏清立清足経堅依遠慮不參所司代保矢代紀季
ホ也諸事如例
廿八日
於吉顕亭指揃參集之輩中指梁諸事
如例
一同二庚戌年四月廿日
於和平亭所司持平中指參集之輩座席
裏清立清足経堅依自今遠慮不參所司代
延清ホ也諸事如例
同月廿八日
於和平亭指揃有之參集之輩同前諸
事如例
一同三辛亥年四月廿一日
於吏季亭所司倅季中指有之參集之
輩座席裏清立清足依遠慮不參経堅依慥居
紀季保矢右両人自今所司代添氏ホ也諸事
如例今年顕裏九人乗馬也
同月廿八日
於吏季亭差揃有之參集之輩同前
諸事如例
同月廿九日入夜
於吏季亭小中指有之吉趣者五番元輩虎
二番左保矢故障ニ付其替添氏小折紙改差
出添氏此迄初代之処其替経宜小折紙改差
出依之參集之輩座席元清立紀季所司代
添氏ホ也諸事如先例但添氏儀二番元初
梁尉顕代ニテ既ニ中指指揃ホ相済之上又ミ
右之通改相替之儀自由之至也雖然添氏ハ
梁元中、改及相談之処左ハ不申ニ付如此ニ
且保矢昨廿八日夕方故障之趣五番元ニ、

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

届有之社中へ暇服之届ホト有之由然ル二今日迄
小中指延引如何即日可有之事也

一
同四日乙丑 晴 四月廿二日
於古顕亭 所司 佳保 中指有之矣集之掌座
席元清立紀季壽顕 自今年新加 経昜依數后不參
所司代古顕ホト也諸事如例
同日入夜
於古顕亭小中指有之吉趣者十番衆葉尻
九番左季寛故障 文子死去三日之暇服 依之替り季才
小折紙ヲ差出矣仍之掌座席元清立壽
顕所司代古顕ホト也諸事如例
同月廿七日
於古顕亭指揃定日也然ル處早朝十番
衆葉尻二番左季才有差閊之儀而ヲ退
其替り季寛小折紙ヲ差出依之先中指
之式有之了直ニ指揃有之參集之輩

一
座席衆清立紀季保矢壽顕不參所司代
古顕ホト也諸事如例
同月廿九日
申刻比於古顕亭小中指有之吉趣者二番衆
葉尻七番左清高故障ニ付替り氏太小折
紙ヲ差出ヲ以テ参集之輩清立紀季壽顕
保矢不參所司代古顕ホト也諸事如例
同五日丑 晴 四月廿日
於古顕亭 所司 保佐 中指有之參集之輩座
席衆清立経昜紀季不參保矢壽顕
所司代添氏代古顕也諸事如例
同月廿八日
於古顕亭差揃也已半刻比各參集座
席衆清立経昜紀季保矢壽顕所司
代添氏代古顕ホト也諸事如例 左銚子加
淨衣着等ノ被用了翌日宮川庄之葉尻

歳平昏鉦吉小折紙被差出但九番衆之
前日之番弁可被改旨所司代へ申入ル
一同六甲寅年四月廿三日
於吉顕亭 所司同保 有中指座席衆清立
経堅紀季保矢拿壽顕所司代吉顕ホ也
諸事如例
同月廿七日
於吉顕亭有指揃矣集之輩中指同前
諸事如例
一同七乙卯年四月廿一日
朝餉後於雪禄顕亭有中指座席
衆清立経堅紀季保矢不矣壽顕不矣
所司代季服ホ也諸事如例但依倹約
之法ル明和九年之例朝餉并菓酒無ク
執式之歟ク蛤吸物ホ酒勿論肴二種
等ル也

一

各退散
同月廿八日
宣餉後於禄顕亭有指揃矣集之輩
座席衆清立経堅紀季保矢壽顕不矣所司代
季服ホ也并芽浄書如例但依倹約ヲ専
菖蒲艾立物之考歟ヲ小漬酒ホ無シ
同八丙辰年四月廿日
於序顕亭 所司依 中指矣集之輩座席衆
清立経堅紀季壽顕保矢不被障所司代保
永ホ也諸事如例指揃ホ事ホ日ニ依之
依テ不ヲ人ヲ集ル入魂也
同月廿八日
於序顕亭指揃矣集之事清立経堅
壽顕所司代保永ホ也諸事如例但五月
朔日儀文庄菓尻黄雲ニ假処歳平ニ改ル
則小折紙ニ取替ル也

一
同九丁巳年四月廿三日
於吉顕亭 所司佐保代貫顕 中指參集之事清立
経堅紀季不参保矢 壽顕所司代報清返
諸事如例 指揃之素廿六日 治定 依之参
々輩内之後入魂也
同月廿六日
於吉顕亭 指揃有之參集之事 中指同前
諸事如例 但紺日権祝来亢胡保故障ニ付季傍
ト云共書依之折紙注置者也
同十戊午年四月廿一日
於吉顕亭 所司重尚代貫顕 中指參集之事清立
経堅紀季保矢 壽顕所司代報清之諸
事如例 指揃之素廿八日 治定 依例
参々輩内之後入魂也
同月廿八日
於吉顕亭 指揃有之参集之事 中指同前

一
諸事如例
五月二日
両剋比於吉顕亭小中指有之 旨趣者當亢
参尻十番左経苗所労ニ付替リ一顕小折紙
若俊持参之由也 參集之事清立 経堅所
代報清代顕ホ也 代官中へ渡シ有之 理ニ
通不可ゝ有ホ内左方斗ル与有之事右
一通依為五郎也 神主、忌五日所司差 殆仮ニ
ニ五郎也 神主、忌五日所司差 殆仮ニ
参ル事 社院ゟ之 人ゝ云也 安永也 紙
右ゟ不渡 治ホ也 成功 許不可
同十一己未年四月廿三日
於吉顕亭 所司経就代貫顕 中指有之参集之事
座席衆清立 経堅紀季不参 保矢壽顕
所司代経紹 諸事如例 指揃参廿日
治定不可ゝ参内ゟ後入魂也例

同月廿八日
於吉顕亭 指揃 参集之少将清立 経堅
所司代 経紹 紀季保 矢 寿顕三人不
参之諸事如例
五月朔日
巳刻過 賀顕入来二番元衆 尻同清所
労参着 秋保小折紙 差出 依之只今
小中指 去候之 参集之処 如此 即刻
参集之少将清立 経堅 紀季保 矢 不参
寿顕 衆所司代 経紹 也 同清七番右
之処 着 秋保三番之左也 今日之儀 左中指
之 清書面之 少将 差し 矢 指揃之通
左右二通 共 次書 改之 去月之 左右口
 来五月 之書之 奥 延五月 日 之書
 所 然 之 又右之 通之 沼之 神主 之 如
之 参之 着 又今 合之

一
陣朝之処 名清 候 之 酒 着 少将 参集之 殿
寛政十二庚申年閏四月廿四日
於吉顕亭 御 中指有之 参集之 事 座席 元
清立 経堅 紀季保 矢 寿顕 所司代 保 衆 但吉
諸事如例 差揃 廿八日 決定 可 衆 閉之
儀入 込 如例
同月廿八日
於吉顕亭 差揃有之 参集之事 中指 図前
諸事如例
寛政十二年十月十三日 保矢 辛去 春
享和元年二月其 督 保要 談加也
一
享和元辛酉年四月廿二日
於 徐顕亭 所司 延顕 中指有之 衆集之 事 座席
元清立 経堅 紀季保要 寿顕 不参 所司
代 元顕 也 諸事如例 着揃 廿八日 治定 也
同月廿八日

於同亭差掛有泰集之事同前諸事如例

五月四日

未刻半一番衆初衆保張代保仲一番之
右之処外戚舅死去事保張保仲両人共
故障但参宮被止後依例不及出仕表ヲ
芥捨ニ而差番組来改之執筆ニ出ル玄保仲
芥注同席也假令其席無相違不及組
替先例也

一 同二十戌年四月廿三日

於所司禄顕亭中指有之参集之事
席元清立紀季保要壽顕任堅服重
不参ニ所司代元顕不也諸事如例

同月廿四日

中指有之参集之事同前但紀季当番ニ而不
来旨触有之衆来元ニ番右座清差障ニ
之替保傳小折紙被差出候事如例

同月廿八日

差掛有泰集之事中指同前諸事如例

同三癸亥年四月廿四日

於所司禄顕亭中指有之参集之筆座席
衆清立依所労經堅依服中紀季保要壽顕
所司代不顕諸事如例

同月廿八日

指掛泰集之事紀季保要所司代不顕
也諸事如例

文化元甲子年四月廿三日

於所司禄顕亭中指有之参集之事座席
衆經堅依重服紀季保要氏都壽顕
直一所司代季才諸事如例

同月廿八日

指掛泰集之事中指同前但保要不参

諸事如例

一 同二乙丑年四月廿三日
於吏季亭所司祿顕中指有之參集之半座席
衆経堅紀季保要不参氏都壽顕直一
所司代季誰也諸事如例

同月廿八日
指揃参集之半座席衆経堅記季保
要氏都不参壽顕不参直一所司代季誰
諸事如例

一 同三丙寅年四月廿四日
於所司祿顕亭中指有之參集之輩座
席衆経堅紀季氏都壽顕直一所代
吏季等也諸事如例

同月廿八日
指揃参集之輩経堅紀季氏都
壽顕不参直一所司代吏季等也諸事
如例

一 同四丁卯年四月廿三日
於吏季亭所司顕中指有之参集之半経堅
紀季氏都壽顕直一所司代清辭等也
諸事如例

同月廿八日
指揃参集之半経堅紀季自余不参所
司代清辭也諸事如例

一 同五戊辰年四月廿四日
於祿顕亭所司顕中指有之参集之半座席衆
経堅紀季壽顕并所司代季誰也正所司
代吉顕但賢顕依故障也氏都直一而人不
参諸事如例指揃日限廿七日に治定也
参集之半ハ引文入現合壹人ニ
志ニ候ハヽ新文入ル

同月廿七日

於禄顕亭指揃參集之半座席元經堅
紀季氏都所司代季龍諸事如例壽顕直一不
參也

一
同六己巳年四月廿四日
於吏季亭所司表中指參集之半座席
一顕經堅紀季氏都壽顕直一所司代不顕
諸事如例指揃日限廿八日治定時分觸
入禮如例

同月廿八日
於吏季亭指揃參集之半經堅紀季氏
都所司代不顕也諸事如例壽顕直一
不參也

一
同七庚午年四月廿二日
於賢清亭中指參集之半座席裏經
堅經明紀季氏都壽顕不參直一
所司代清矢諸事如例

同月廿九日
於賢清亭指揃參集之半座席元
紀季直一所司代清矢也諸事如例

一
同八辛未年四月廿三日
於賢清亭所潮中指參集之半紀季氏都
壽顕直一所司代在俊諸事如例

同月廿九日
於同亭指揃參集同前但所司代吉顕
依在俊所労引諸事如例

一
同九壬申年四月廿三日
於賢清亭中指參集之半紀季氏都
壽顕直一所司代清祈諸事如例

同月廿八日
於同亭指揃參集半紀季氏都
壽顕直一所司代清祈諸事如例

一
同十癸酉年四月十九日

於吏季亭中指參集之事紀季氏都直
一所司代三保諸事如例
同月廿八日
於同亭指揃參集之事紀季氏都所
代三保諸事如例
五月四日
五番衆參局卿季三番之右之処頓故障
季參宮被以後依例不及小中指表補缺
被改此段所司ヨリ被届所司ヨリ初參中ス
被届ケ番組ヲ改之執筆ヨリ被出ヲ卿
季補缺其席雖相違不組替先例也
同十一甲戌年四月十九日
於賢清亭中指參集之事記季氏都
寺顕直一所司代芬氏諸事如例
同月廿八日
早朝賢清入来首趣者七番衆參局

任傑依所労経尹小折紙被取替候小中指
之義如何可仕哉之旨也仍右候者先小中指
被致右畢ヲ指揃可然候間左様可被
心得旨申渡也
小中指指揃ニ付賢清亭ヘ集記季
氏都直一所司代芬氏小中指ヲ指揃
ヲ諸受如例
一
同十二乙亥年四月
一
同十三丙子年四月廿五日

於遲清亭中指忝集之半氏都壽顯
直一經紹祢弊所司代丕顯諸事如例
同月廿九日
於同亭指揃忝集之半氏都直一
壽顯經紹所司代丕顯諸事如例
同十四丁丑年四月九三日
於圭季亭中指忝集之半氏都
壽顯經紹所司代清祈諸事如例
同月廿八日
於同亭指揃朱集之集氏都壽顯
經紹所司代清祈諸事如例
同

文政四辛巳年四月廿日
於賢清亭中指忝集之半壽顯
經紹經威所司代充直諸事如例
同月廿八日

於同亭指揃參集之半壽顕経紹
経威所司代支直諸事如例
文政五午年四月廿一日
於賢清亭中指參集之半　壽顕
経紹経威但経威之頭人右馬帽子
着用　所司代
邑保諸事如例
同月廿八日
於同亭指揃參集之半壽顕経
紹経威着用如前所司代邑保諸事如例
文政六未年四月廿八日
新皇嘉門院様薨去ニ付觸穢被仰出競
馬延引右ニ付中指廿八日被相催指揃
之儀ハ競馬會所ニ行以前ニ候ハヽ
假先格也
於賢清亭中指參集之半　壽顕
経紹経威所司代張顕諸事如例

但依倹約仕丈明和九年寛政七年之
例朝飯ハ前酒無之献式三献ニ而
吸物却而五献肴三種ニ而も可
也指揃之日限ハ追而御定也
觸穢六月二日相明申候ニ付競馬參
會月廿五日ニ而行候ニ付廿八日指
揃ニ而催候也
六月十八日
於賢清亭指揃參集之半壽顕経紹
経威所司代張顕諸事如例但依倹
約一ツ盃肴菓子五物之肴献ニ而
御酒ハ無之
文政申年四月廿四日
於賢清亭中指參集之半座席并
壽顕経紹経威諸事同前所司代張顕
諸事如例

同月廿八日
於内亭指揮參集之半座席被經給
經威曙朋前所司代張顯諸事如例
同夜 朔旦乘元舟木庄十帰大史氏士
依所労昏縫殿之介大史愛清宿禰同夜
會於保仲迄所司賢清注而翌二昏
早朝所司代音付書改會於保迄
文政八乙酉年四月廿三日
於賢清亭中指參集之半座席被經給
經威依故障不參所司代猿顯諸事如例
同月廿八日
於賢清亭指揮參集之半座席被
經給經威依故障不參所司代猿顯諸事如例
文政九丙戌年四月廿五日
於宏顯亭中指參集之半座席被
經給經威曙朋前所司代經千諸事如例

同月廿九日
於内亭指揮參集之半座席被經給
經威續朋所司代經千諸事如例
文政十丁亥年四月廿四日
於賢清亭中指參集之半座席被
經給經威曙朋所司代猿顯諸事
如例但依候約任明和九寅政七文政
年之例朝飯ニ献前酒無之献式三献
ノ略吸物即肉ニ献肴三種(うをるこ)(ろくにぬき)(すもの)
斗也指揮日限ヲ来廿七日迄也
同月廿七日
於賢清亭指揮參集之半座席被經給
經威着用讀上下所司代猿顯差弁淨書如
例但依候約任明和九寅政七文政
年之例朝飯ニ献前酒無之献式三献
ノ略吸物即肉ニ献肴三種(うをるこ)(ろくにぬき)(すもの)
斗也指揮日限ヲ来廿七日迄也
同月廿七日
於賢清亭指揮參集之半座席被經給
經威着用讀上下所司代猿顯差弁淨書如
例但依候約任明和九寅政七文政
文政十一戊子年四月六日

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

於賢清亭中指參集之半座席元經紹
經威所司代兼帶諸奉如例
同月廿八日
於円亭指揮參集之半座席元經紹
經威所司代兼帶諸奉如例
文政十二己丑年四月廿五日
於賢清亭中指參集之半座席元經紹
經威靏用所司代張顯諸奉如例
同月廿九日
於円亭指揮參集之半座席元經紹
經威靏用所司代張顯諸奉如例
文政十三庚寅年四月七日
於賢清亭中指參集之半座席元經紹
經威靏用所司代張顯諸奉如例
同月廿九日
於円亭指揮參集之半座席元經紹

經威靏用所司代張顯諸奉如例
天保二辛卯年四月廿四日
於賢清亭中指參集之半座席裏
經紹經威經晃新加所司代必顯依例
前方不仍而經威補之諸奉如例
同月八日
於円亭指揮參集之半座席裏
經紹經威經晃不參所司代必顯諸
奉如例
天保三壬辰年四月廿四日
於賢清亭中指參集之半座席裏
經紹經威靏用前所司代必顯諸奉如例
同月八日
於円亭指揮參集之半座席元
經紹經威靏用前所司代必顯諸
奉如例

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

一
天保四癸巳年四月廿四日
於賢清亭中指衆集之宰座席衆
經紹経威依服中所司代必顕諸事
同月廿九日　如例
於冏亭指揃衆集之宰座席衆
經紹経威依服中所司代必顕諸事
天保五甲午年四月廿四日
於賢清亭中指衆集之宰座席衆
經紹経威着用所司代保守諸事如例
天保六乙未年四月廿二日
於賢清亭中指衆集之宰座席衆經紹
所司代経威諸事如例
同月廿九日
於冏亭指揃衆集之宰座席衆
經紹経威着用所司代保守諸事如例
同月廿九日
於冏亭指揃衆集之宰座席衆
經紹経威着用所司代顕諸事
天保七丙申年四月廿三日
於宏顕亭中指衆集之宰座席衆經紹
経威着用所司代保守諸事如例
同月廿八日
於冏亭指揃衆集之宰座席衆經紹
経威着用所司代顕諸事如例
天保八丁酉年四月廿四日
於宏顕亭中指衆集之宰座席衆經紹
経威着用所司代顕諸事如例
同月廿八日
於冏亭指揃衆集之宰座席衆經紹
経威着用所司代顕諸事如例
天保九戊戌年四月廿三日
於宏顕亭中指衆集之宰座席衆經紹

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

経威着用前所司代章顕諸事如例
但依社中倹約任明和九寅改七支改ハ
同十年之例朝飯并前酒無之献式三荷
了蛤吸物即而立花肴三荷焼鯖ニ而
斗也指揃之日限ハ来ル廿八日仕立也
同月廿八日
於門亭指揃参集之少将座席衆経
紹経威着用前所司代章顕差符浄
書如例但依倹約一ツ盃肴浦江
立物之肴献斗ハ遣御酒ニ而無之
五月四日
七番衆栗尻宏顕ハ番之右之処頓而故
障ニ付参宮被後依例不及小中指表
ニ保治ニ被改此段所司江被届所司より
初菜中江被届并番組ハ改之執筆ニ
被出ル左宏顕保治其席雖相違不

及沙汰先例也
天保十巳亥年四月廿四日
於遅清亭中指参集之少将座席衆
経紹経威着用所司代保逞諸事
如例但依社中倹約昨年之通朝飯
并前酒無之献式三献了肴吸物無之
肴三種ニ而斗也指揃之日限ハ来ル
廿八日仕立也
同月廿八日
於門亭指揃ハ参集之少将座席衆経紹経
威着用所司代保逞差符浄書如例
但依倹約一ツ盃肴浦江立物之肴献斗也
遣御酒ハ無之
天保十一庚子年四月廿日
於可清亭中指参集之少将座席衆
経紹経威着用所司代季治諸事

例但社中依倹約昨年之通朝飯并
酒無之献式三献ニ而肴三種ニ而
吸物ニ而可也指揃日限者来ル廿八日
治定也
同月廿八日
於可清亭指揃参集之半座席ニ而経沼
経威着用祈司代李治差符準書如
例但依倹約一ツ盃菖蒲艾立物之肴
献斗也小漬即肉不無之
天保十二辛丑年四月九二日
誓清亭中指参集之半座席ニ而経紹
祈司代経威諸事如例但依倹約
昨年之通朝飯并前肉無之献式三献
ニ而肴三種ニ而吸物ニ而可也
指揃日限ニ而者廿八日治定也
同月廿八日

於可清亭指揃参集之半座席衆
経沼祈司代経威差符準書如例
但依倹約一ツ盃菖蒲艾立物之肴
献斗也小漬即肉不無之
五月四日
四番衆集ニ而彭清五番之右之処頓
ニ故障ニ付参宮被後依例不及ニ中指
来ル陳季ニ被改此段祈司ニ被届
ニ付初集中ニ被届ニ番組不改之勤集
ニ被出ニ而已彭清陳季其席無相
違不苦旨先例
天保十三壬寅年四月九日
於宏顕亭中指参集之半座席ニ
経紹経威着用祈司代秋直着用
諸事如例但依社中倹約朝飯
并前肉無之献式三献ニ而肴三

種 [illegible] 吸物也指指之限
八寸廿九日治定也
同月廿九日
於宏顕亭指揃忝集之半座席
兆経紹経威 績上下着用 所司代秋真差
符淨書如例 但依倹約一ツ盃菖蒲
艾立物有敷計也 小漬雖有之無之
天保十四癸卯年四月十九日
於可清亭中指忝集之半座席衆経
紹経威重誠 今年新加 顕純 着用未
所司代保定 着用 諸事如例 但依
日 前
社中倹約朝飯 前 酒無之 献数三数
酒有三種 吸物 差指
日限 来ル廿八日治定也
同月廿八日
於可清亭指揃忝集之半座席衆
経紹経威重誠 顕純 故障 不忝
経紹不忝 小漬雖有之無之
一 [illegible] 天保十五甲辰年四月廿一日
於可清亭中指忝集之半座席衆
経紹重誠 顕純 故障 所司代保定諸
事如例 九日差揃治定之処
同月廿九日
於可清亭差揃忝集之輩座席衆
経紹重誠 所司代保定 献式如例年
弘化二乙巳年四月十八日
中指 忝集之半座席 兆経治顕純 所司代
重誠如例 差揃 九日治定之
同月廿九日差揃
忝集座席 兆経治顕純 所司代重誠
七番 兆宏顕 奴僕 督保治十番 右季納

故僕参り清瀧小折紙出差出于時中指
之通張紙ら被出之ら差等添ら被参
如件
弘化三丙午年四月十九日

於可清亭中指参集座席元経紹
重誠(裃着用)祈司代顕純諸事如例
出ら差控候事
同月廿八日

於小亭差揃参集亭座席元経紹
顕純祈司代 重誠参 諸事如例
弘化四丁未年四月十八日 祈司表 具左ノ通

於才清亭中指参集之事座席衆
必顕純加 重誠顕純 祈司代季治
諸事如例年差揃廿七日控之
同月廿三日

三番衆栄元九番左恭保依子細所労

恭保二條殿動仕左屏風之陰ら
令出候ら内々依混雑之(ママ)
栄元七番右初志顕故障ニ付替り顕盤九
番元栄元四番右重正依社用(ママ)雑掌役替り
永季並祖日栄元権祢宜栄元維顕依故障
替り當顕正祢宜栄元氏鄭(ママ)九番元(ママ)七日朝
依故障替り注珍土田左氏生田門人替り保洲
ホ小折紙取替出差出但志顕(ママ)ニ付ホ
顕盤ホ栄初栄ニ次七番衆宏顕順番ニ付
同手栄元季治宏顕初代ニ成ホ栄老顕ニ
明年初栄ニ而ら勅ら也但依近例小中指之
義指揃ニ而ら差出

同月廿七日

小中指差指揃参集座席元重誠必顕故障
(不参)祈司代故障(ママ)祈司代季治先中指之書物ニ而
相改次指揃清書有之祖日番ニ付祈司代
法之段祈司ら社中ニ而ら差出ら人

嘉永元戊申年四月廿日
中指忝集于可清亭座席衆必須賀純
改淂衣冠祈司代帝城諸事必須差扣治定
上下着用
同月廿八日
差控忝集必顕顕純着用淂衣冠祈司代
帝城如例年々
嘉永二己酉年閏四月九日
中指忝集座席元必顕帝城顕純祈司代
清康諸事例之通　差控其日治定
一當年清衆十人ニテ座席上ケ下ケ多少
約束ニ而皆々致相合置之候
一文政二年故右直祈司代迎ニ後四月日ヨリ
天保九年故章院殿祈司代ニ而四月日ヨリ依而
年号四月日ヨリ改
同月廿八日
差掛忝集第一中指　座席衆顕純衆

不忝重誠不忝祈司代清康　四番衆勤清
勞替秋直七番元差顕衆勞替保治十番
衆初衆　衆勞替ニ而顕ヨリ差替
一才清保治六番左右順之処保治ハ才清之
舅タルニヨリ相合不和成ニ之タメ保治一座
下七番ニ相合ス
一
嘉永三庚戌年四月十九日
於可清亭中指忝集座席衆必顕帝城
顕純祈司代可清諸事例
一
嘉永四辛亥年四月
於一清亭中指忝集座席衆必顕重誠
清崎新加ニ付無之顕純不忝祈司代保右

諸事控

一 嘉永五子年四月十九日
於可清亭中指集座席衆必頭頭純
清崎 立後名跡 祈司代季治 諸事
如左例

一 嘉永六癸丑年四月十九日
於可清亭中指集座席衆必頭頭純
清崎 立後名跡 祈司代季治 諸事
如左例

同月廿二日
朔日注連祢宜葉尾清右衛門 替東季
小折紙差出ス可座席元ニ申入候
各去候ニ付中指去候ニ付惣会ニ而代ニ
小折紙ニ而朔日當組一通忌社中ニ被差
配ル大太鳥組ニ而被下候ニ付社中ニ而
同月廿八日
可清ニ来候ニ付 只今ニ而當衆朔日 祢宜尾
等頭座衛門 替り民生駿ニ小折紙ニ差入ル
ニ付名主院ニ而明廿九日差掛之節當組一通
忌社中ニ而 [illegible]

同月廿九日
差掛ニ集ル必頭 立後名跡 頭純清崎
祈司代季治 執式如例
今日三當衆朔日 祢宜尾葉尾 [illegible] 秋直故
障ニ付保連小折紙差出ス 仍執式ス

番組一枚書改所司より差出、
指揃之後翌日奏覧、評定等前例之
文政七年四月廿四日中指同月廿八日指
揃奏覧之節評定所ニ而
其子細上ニ見ユ
同月朔日辰刻前
所司於年頭亭小中指有之集座席衆
少頭之後勘定清崎ニ来所司代季治渡
子讀上下 旨趣者二番衆栗原希顕、評定ニ而
替り清親小折紙ニ差出希顕五番右ニ清親
二番左ニ依之中指清書通ニ直之指揃
之通ニ所司代季治渡書改但実改ニ
年之通日之所来ル五日ト書奥之所五
月日ト計書ル様ニ入右之通被仰聞了
右小折紙昨夜差出候処今朝
奏覧ニ而神主ニ後刻ニ来ル様

可被申入旨申含 今日ニ限ル義無之
同日巳刻過
於同亭小中指有之集座席之上ニ今朝之通
ニ清崎ニ而旨趣者七番衆栗原昨直故障
ニ付(届ケ出ル)替り保治小折紙ニ差出昨直衆
之通次初菜十番衆等顕小折紙ニ而指揃
手成麗小折紙ニ引直一番ニ栗原昌顕
ニ等顕弟ニ付小折紙ニ引替り保右小折
紙ニ差右之通多人数之狂言恐悦奉
了ル然ル所ニ候ニ付速ニ引直ニ而ニ
引代ニ座席ニ之ニ依差閊今朝之通直
夫ニ双清書有之ニ而
一嘉永七甲寅年四月廿二日
於年頭亭中指有之集座席ニ顕能
清崎ニ而ニ業ニ後業ニ所司代季治
諸事如例ニ差揃ニ而八日作定ニ而

同月廿八日
於年頭亭差揃参集之半座席
衆顕純清崎必衣裳重城裏
所司代季伯二番元乗院左馬清潔
七番之左平野孫右衛門
中指之通張紙之上書改差替清書了
献式如例年
一
安政二乙卯年
一
安政三丙辰年四月十九日
於才清亭中指参集之半座席衆必顕

秋直重誠清崎顕純 各裃着用 所司代
季言 各裃着用 諸事如例
近年小折紙書様之遠之方有之ニ付今
日来遠方ニ而ハ皆々被相招書直可被
致旨申入候処
同月廿八日
於円亭指揃参集座席衆秋直
清崎各裃着用必領重誠裏 所司代
季言 裃着用 諸事近例之通
一
安政四丁巳年

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

一

文久二壬戌年四月廿三日

於政所清亭中指有之候刻比時分
觸穢集小牢座席衆清崎清康
頭弘（七冊ニ入 在厚紙）清得（加ニ御用 在厚紙）祈寺代
大清各着用表帷子（麻上下）諸事如例年指揚
来廿九日ニ治定

九番衆相日衆尻小折紙不都合之儀有之
所司大夫ヨリ彼是掛合有之遅刻ニ成ル
同月廿九日
指揃参集如正三日諸事如例
同月晦日辰刻
祝清久来唯今小中指相催候由之参集
座席尻清崎（績上下 唯子績）清康（唯子績 上下）祈
司代大清（唯子績 上下）吉趣者昨夜深更
八番衆衆尻経収故障尻足汰衆尻経
故障ニ付八番衆清勢（評定之馬保賢

木小折紙如差出如例差扨左右之通
書改其余ハ直ニ三ノ相済了
文久三癸亥年四月廿三日
於亭中指忝集時方ニ座席元清崎清康各麻上下着顕純モ麻上下着
所司代保科肥後守殿
指扨来廿四日治定
同月廿八日
差扨忝集座席元清崎唯子上下
所司代保科肥後守殿
顕純保房
諸事如例年
元治元甲子年四月廿五日
於亭顕亭小中指有之忝集
所司代重敬
顕純保房
経茲
如例年依例約中
献式ノ酒ヲ也献式

了三ツ宛ヲ以吸物ニ而三種肴
忝集
数返流巡ノ上献盃
指扨
来廿八日治定ノ旨ヲ以右ノ通ニ
同月廿八日
於亭額亭指揃兼小中指有之忝集
中指ノ前座席元ニ而所司代ヨリ麻上下唯子
先小中指有之
旨趣ヲ三番元来元清親依差障ニ引
保周小折紙ヲ差入ル三通共ニ書直座席
元之指図ヲ以仕紙ニ直シ右脇ニ先例ヲ
親ヲ二番ノ右保周ヲ三番ノ右ニ而
指揃如先例依例約中一ツ盃ヲ
建物肴三ツ献式ノ酒
翌日番組一枚ヲ認メ呈ス
五月二日己刻比
於亭顕亭小中指有之忝集座席
翌顕純保房経茲
所司代重敬

麻上下 吉趣者一番取菜尻三番左清資
帷子
故障清隆女子(兄弟之娘)替り土顕小折紙差指出候公家
右之代官中、波有之差符二通所司代重教
より波申出之処、中指之通差符二通
ニ認替案ニ添紙ニ而出候ニ付而、番組一枚ニ
筆ニ書改ニ而所司代より為(神主ニハ五日暫
大夫法楽神事ニ付而ハ申与ニ(奥ニ)
今度日数四月 日ヨリ認(奥ニ)
且又改ニ十二三小折ニ差符二通ニ
認替候ニ付、廿日ニ認ニ而所司代ニ改申ニ
ニ而ハ無之候ニ付
慶應元乙丑年四月廿五日
於才清亭所司代清中指有之旨領光吟箔
有之ニ付
公家集之事座席流顕純保房経啓清崎依差掛
不申ニ所司代民命(麻上下如例ニ依倹約
数ニ而ハ有之ニ先献ニ而ハ有之ニ吸物
日光院 剣ニ而ハ有之ニ先献ニ而ハ有之ニ吸物
美濃判

一

ニ而ハ有之ニ而ハ無之ニ而ハ有之ニ而ハ無之ニ而ハ有之ニ而ハ無之

於才清亭有之衆集衣裳列之清喬顕純
保房経啓表帷子 袴上下 所司代顕東 表帷子 袴上下 各相
揖之後指揖如例了如献之式如例
但今年温気之処冷酒之如有之
九ヶ

一
慶應三丁卯年四月二十二日雨
於可清亭 清閑 所司中指右之旨觸当日時分觸之有
衆集顕純保房 予 顕之所司代季尚 表帷子 袴上下 清喬
依衆勧之衆不来 如例了献之式了三ヶ度吸物 雖然不来 重
肴三度 義兄弟之 好之 計也 ままごと ままごと 北右流
小 退散 但差揖 衆人 指之 儀也 依之 理左 留顕 右 退勝徳顕
元清留顕 鼻顕也 依之 番 差之 有之 番
経勝徳顕右 九番 不 理左 留顕 右 格番 元清 左
鼻顕右之通 但合 当日 所司 代 季尚 之 衆
同月廿九日 晴天 於清 亭 九月之 差揖 勇小中差 有之 衆
集 案内 有之 衆 出座 席列 北座 席衆 着

一
養母 依 服不 衆 顕純保房 所労 依之 不衆 着用 坐席 衆 表帷子 袴上下
所司代 表帷子 袴上下 各相揖之後先小中差
有趣者六番衆経啓 依所労 小折紙 差引 季尚 於
紙所司 大夫 之 差当之旨 吹 出 白所司 大夫 坐席衆
江中来即刻 革指可催之 處 仍 近例 今日 一ヶ 後ら 顕
純より返答 有 後ち 之 依之中指之 勿 所司代 季尚 記 之
三通 座席衆之差図 次 表 書 改 以 紙 之 表 有 之 衆 之 達
衆 経啓 者五番之左 季尚 之 十番之左也 十番 顕 之 衆 之
右了 指揖如例了 献之式 如 先例 所司
代 才 清

一
慶應四戊辰年 後四月二十日
於可清亭 所司 代 季尚 顕中指有之 右之旨觸当日 昨夕 触 有之
衆集 顕純保房 各 表帷子 袴上下 所司代 季尚 之後 衣 麻上下 口上
依 不参 予 一 衆 家之 儀 不参 清喬顕
之者 触之者
式ニ下如例
同月二十六日 但六月 差揖 如 此 触之旨 触 有之 於可清
亭有之衆集清喬顕純保房 表帷子 袴上下 顕之 衆
所司代 季尚 表帷子 袴上下

敍式采如例

一明治二巳年四月二十四日晴曇

於可清亭 祈司代 才清 中指 右三日觸當日時方列名ノ
參集清崎顕純子保房顕之 祈司代氏出嚮表
麻上如例敍式了三盃吸物雉赤ノ汁 東青三色
肴ノこと いろいろ 賀分 有之候ニ付 略ス

流巡ノ教座席上ケ下ケ無シ

同月廿八日 曇晴 但シ月 指揃 右三日朝以方列名ノ
於可清亭有之 參集之輩 清崎錠 顕純 註略 保房
顕之不參 各表帷子 襠上下着之但 祈司代氏出麻上下 敵式
ニ下如例

一明治三庚午年四月廿一日晴

於可清亭 祈司代 中指 右三日觸當日時方觸
有之候ニ付 列
元集清崎 顕純 註略 各表帷子 保房不參ニ付 顕之
中宮御祈禱社 東京在勤中 祈司代 才清 清祿也 上下 先ニ付 參免
台前ハ賀茂縣主 實名ノ 被認候次第ニ 祝恩

一紙ハ戸ノ畏ニ 性實 實名ハ 廻ニ 性戸 實名右之通
改祈司代 差圖也 初又 廻ニ 昨年ノ通 廿四日
ト廿日ノ上、書セテル 但座次 致清 才清 清祿也
仍座 湖有次第 操上ケ 但合清 一段ノ次座之ニ
下ノ人ト 但合未後ナレ共 今年ハ 重敷 一座下ケ 七番
左ニナル 致清 一座上ケ 六番ノ右ヘル 如左スレハ 上下ケ
一ツヲ相滅ス 如此ニ下如例 予今日御備番
神人安本内愚宅、有之ニ 廻五番ノ処 才清
ノ 急ニ中座ニ 付 不參 被申候仍記

一

同月廿八日 雨但朝 指揃 右三日朝以方列名ノ於可
清亭有之 參集之輩 清崎錠 純註略 保房 東青
ニ 參免 台前ハ賀茂縣主 實名ノ 被認候次第ニ 祝恩

一

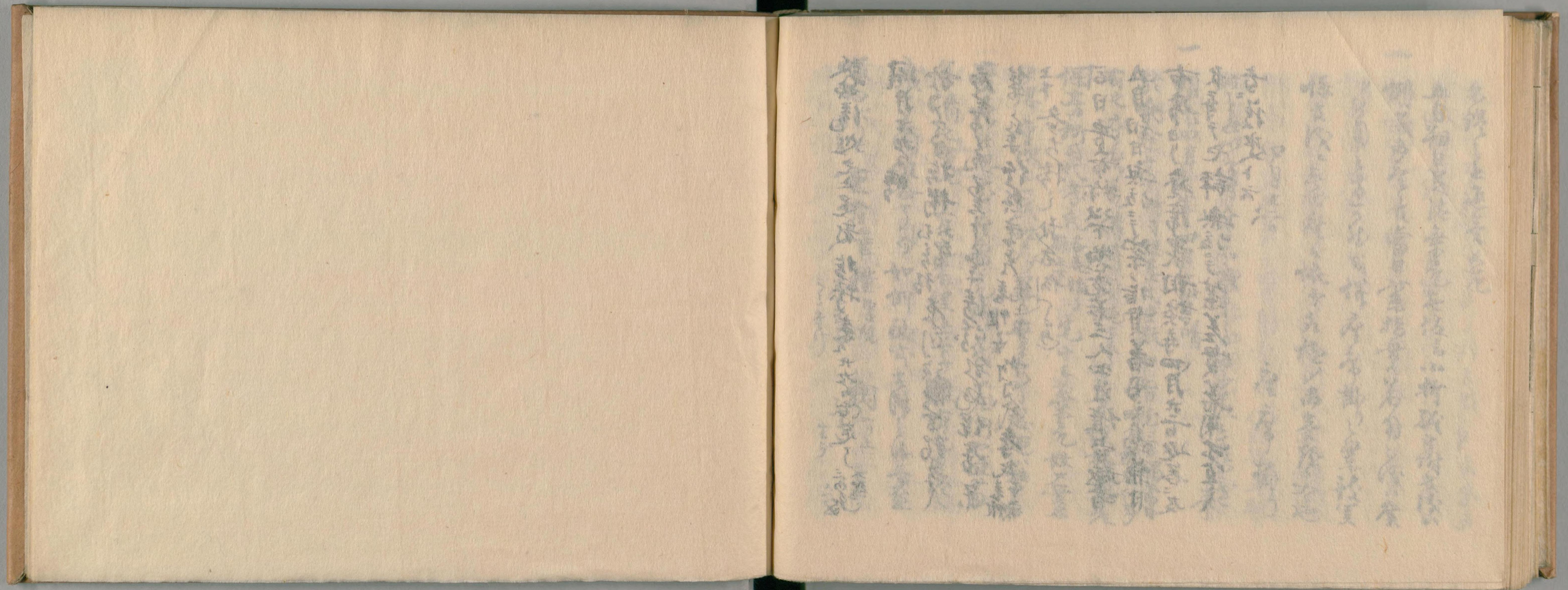
明治四辛未年四月十七日 賀茂社 社家 中ヘ
祈司代 才清 清祿也 表帷子 上下 着用
教式ニ下如例

一

明治四辛未年四月十七日 賀茂社 社家 中ヘ
祈司代 才清 清祿也 表帷子 上下 着用
教式ニ下如例

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』　請求記号 832-305
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』　請求記号 832-305　　ガラス使用

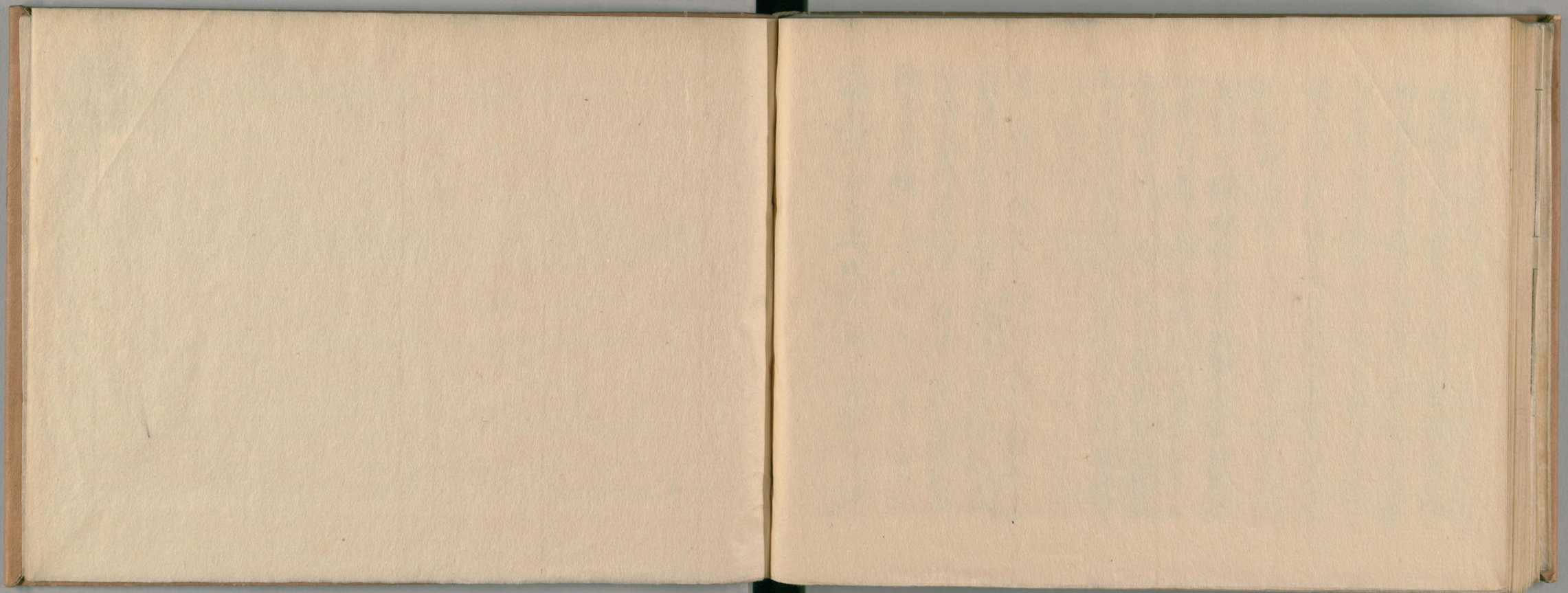


国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』 請求記号 832-305

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

832
97
305

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『賀茂社記録. 第87冊』　請求記号 832-305

ガラス使用

一

衆必須饗重被頒

壱百疋氏生 正祢宜氏彰 今朝被陳弊壱百疋

替保州 正祢宜香経珍 権祢宜維顕教章

替當頭ホ小折紙ヲ差出 三番衆某保替リ

共清六番衆初参顕枝陰替リ初安顕ヘ廻

季治乗馬中指ニ季治七番ヘ小折紙ヲ差出

処実ハ初乗ニ季名初代ニ某ル九番衆重正替

永季ホ小折紙ヲ差出故障外某保重正両人ヲ

中指ヲ御拡行名小折紙ヲ差替ル式ヲ名所

引多文次ヲ号処某保ヲ子細ヲ号文ヲ二乗

ル発ヲ由 重正ヲ一吹廿日雑掌役ヲ奉執依旨

奉行ヲ以ヲ先中指之廻振紙之上書仗植替

清ヲ号献式如例

嘉永元戊申年四月廿日

於可清亭中指参集座席衆必顕

顕純 狩衣上下着用 取次代重祐 諸事